
令和7年度 第1学年

S Y L L A B U S
(シ ラ バ ス)

自立実践

授 業 計 画

北海道白糠高等学校

目 次

現 代 の 国 語 ...	2
言 語 文 化 ...	5
公 共 ...	9
数 学 ...	11
科 学 と 人 間 生 活 ...	14
体 育 ...	16
保 健 ...	18
音 楽 ...	20
英語コミュニケーション ...	23
家 庭 総 合 ...	25
情 報 ...	27
ビ ジ ネ ス 基 礎 ...	30
産 業 社 会 と 人 間 ...	32
環 境 鮮 麗 学 ...	34
総 合 的 な 探 究 の 時 間 ...	35

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
1 学年	国語		現代の国語		2	秋間 朋子		
使用教科書	新編 現代の国語（大修館書店）			使用副教材		基本級別漢字		
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
		○			○		○	
育成のための 具体的方策	基礎学力：ワークを通して学びを確認したり、小テストを行い定着を図る。 コミュニケーション力：他者意識をもち、相手の意見を受け入れ、自分の考えを伝える活動を行う。 情報活用力：ICT機器を適切に活用し、情報を収集し、整理してまとめる。 協働力、課題解決力：自らの課題を把握し、グループワークなどで他者と協働し、課題解決を目指す。							
評価規準 （到達目標）	観 点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	言葉による見方・考え方を働かせ、国語での確に理解し効果的に表現するための、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。			言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		
評価の方法	ワークシート 小テスト・定期考査 作品		発表・作品 ワークシート 小テスト・定期考査			ワークシート グループワーク 発表・作品		
単元の目標・評価規準								
単元名	ことばをひらく							
単元の目標	コミュニケーションを上達させていくことに興味をもち、話し方・聞き方を工夫したり読みやすい字を書いたりすることができるようにする。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	話し方・聞き方や書き方について、他者を意識しわかりやすくなるよう工夫している。		筆者の体験と「コミュニケーション」との関係に着目し、筆者の主張のしかたを的確にとらえている。			自分の生活や今後の学習に生かす目的をもって、積極的に言語活動に取り組もうとしている。		
単元名	日本語を使いこなす							
単元の目標	場面や目的に応じた適切な言葉を選び、適切な表記の仕方などについて理解したうえで、論理的でわかりやすい文章を書いたり、わかりやすく整理して話したりできる。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	適切な言葉遣いや文章表現、表記などを理解し、教科書のワークにほぼ全問正解している。		文章で物事を伝えるために、適切な表記や正しい係り受け等を意識し、効果的な文を書いたり、話し方を工夫したりしている。			意欲的に学習に取り組み、言葉に対する関心を広げ、自分の言語生活やこれからの学習活動に生かそうとしている。		
単元名	わかりやすく説明する							
単元の目標	説明的文章からわかりやすい説明の仕方を捉え、情報を整理したり構成や展開を工夫したりして説明することができる。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	説明の原則を理解し、わかりやすく説明することを意識し、正確かつ効果的な表現や表記を用いている。		目的や読者・聞き手を意識して、説明の内容を整理し、よりわかりやすく、より効果的に伝わるように工夫している。			正確にわかりやすく説明することに関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。		
単元名	聞く力を育む							
単元の目標	聞き取った情報を活用するためのメモをとるなどして、大切なことを落とさずに聞き、それを整理することができる。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	話し言葉の特徴や表現などをふまえて、情報をほぼ完全に聞き取っている。		聞き取った情報を、活用のしかたを考えながら効果的に整理してメモしている。			「聞くこと」の大切さを理解し、学んだことをほかの学習場面や言語生活の中で生かそうとしている。		
単元名	論理を読み取る							
単元の目標	表現の仕方に注意し論理展開をとらえ、論理的な文章の要旨を的確に読み取る。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	主張と根拠の関係や具体と抽象の関係、対比の関係を理解し、自分でも例文を考えている。		具体例や対比、比喩を用いたことの効果について考え、論理の展開を的確にとらえ、要約に生かしている。			論理的に読むことに強い興味をもち、教科書以外の文章にも、主張や根拠、具体と抽象、対比の関係などを見いだそうとしている。		
単元名	伝え合いのレッスン							
単元の目標	相手や場面に配慮した言葉遣いや表現の仕方や、コミュニケーションにおける言葉以外の要素の大切さを知り、対話に生かす。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準	状況や相手に合わせ、正確にわかりやすく伝えるため、また、相手の感情に配慮するた		相手の気持ちや反応を予想し、相手も自分も尊重しながら、話す内容や言葉遣い、表現			実際の生活における話し合いや議論において、学んだことを生かそうとしている。		

(A評価のレベル)	めに、適切な表現を理解し、工夫している。	などを考え、工夫している。	
単元名	説得力を高める		
単元の目標	自分の考えが効果的に伝わるように、根拠を明確にして効果的に主張する。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	主張と根拠の関係を意識し、より説得力のある意見や反論の仕方を工夫している。	自分の立場や意見を明確にし、より説得力のある根拠を工夫しながら、意見を述べている。	討論をすることや意見文を書くことに強い関心を持ち、より説得力のある発言・意見文ができるよう、工夫しようとしている。
単元名	情報と向き合う		
単元の目標	図表などから必要な情報を読み取ったり、適切な方法で情報を集め、集めた情報を根拠として、説得力のあるレポートをまとめたりする。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	情報の妥当性や信頼性の吟味のしかたについて理解し、根拠の効果的な示し方を考えている。	情報の信頼性や妥当性を考え、より説得力を高める工夫をしながら情報を整理し、読み手を納得させることができる論の展開、構成を考えている。	目的に応じて、文章や図表などから必要な情報を意欲的に読み取り、それらを関連づけながら考察を深めている。
単元名	他者を動かす		
単元の目標	相手や目的に応じて、適切な通信手段を選択したり、聞き手の心を動かし、目的を達成するために、構成や発表の仕方を工夫したりする。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	目的に応じて、相手に効果的に伝わる表現を工夫しながら企画書を書いたり、プレゼンテーションをしたりしている。	目的や意図に応じて情報を集めるとともに、その妥当性や信頼性を吟味し、相手の気持ちを動かすことを意識して的確に伝えている。	今後の学校生活や社会生活の中で学んだことを生かそうとしている。
単元名	社会に目を向けて		
単元の目標	読み取ったことをもとに、自分の考えを広げたり深めたりする。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	筆者の主張とその根拠の関係についての確に理解している。	筆者の主張とその根拠の関係にもとづきながら自分の考えを述べている。	進んで文章の内容をとらえようとするとともに、内容に関して自らの考えをもち、伝えようとしている。

授業計画					
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4	1. ことばをひらく 1 「変わる」ことを楽しもう 「コミュニケーションは技術だ」 2 ことばの準備体操	2		観察 ワークシート グループワーク
	5	2. 日本語を使いこなす 1 ことばの使い分け 2 正しく書こう 3 文を整え、文をつなぐ 4 伝わるように話そう	7		観察 ワークシート グループワーク 発表 作品 相互評価 小テスト
	6	3. わかりやすく説明する 1 「人間はゴリラとチンパンジーのどちらに近いか」 「ナンバーワンか、オンリーワンか」 「生きることと食べることの意味」	13		観察 ワークシート グループワーク 発表 作品 相互評価 小テスト
	7	2 絵や写真を説明しよう 3 料理レシピを書こう 4 ショートスピーチをしよう			
	8	4. 聞く力を育む 1 聞き取りのレッスン 2 ミニインタビューをしよう 3 聞き取ったことをまとめよう	5		観察 ワークシート グループワーク 発表 作品 相互評価 小テスト

後期	9	5. 論理を読み取る 1 「オカビの胃袋はいくつか」 「商品と贈り物の違い」 「水の東西」	○主張と根拠、具体と抽象、対比に着目することで、論理展開をとらえる。 ○論理的な文章の要旨を的確に読み取る。	6	観察 ワークシート 定期考査 小テスト
	10	6. 伝え合いのレッスン 1 対話のレッスン 2 テーマを決めて話し合おう	○相手や場面に配慮した言葉遣いや表現のしかたを知る。 ○話し合いの目的を意識し、目的に沿った話し合いの進め方を考える。 ○議論の広げ方や深め方、結論の出し方を工夫して話し合う。	5	発表 ワークシート 観察
	11	7. 説得力を高める 1 意見文の基礎を学ぼう 2 反対意見を想定した意見文を書こう 3 ミニ討論会をしよう 【後期中間考査】	○意見文の基本的な書き方と、構成のしかたを知る。 ○意見と理由を備えた基本的な意見文や、反対意見を想定した意見文を書く。 ○自分の考えが効果的に伝わるように、根拠を明確にして効果的に主張したり、相手の主張と根拠の関係をとらえて反論したりする。	9	観察 ワークシート 意見文 小テスト
	12	8. 情報と向き合う 1 「情報の力関係」 「世界は私にほえんでいる」 「どこもかしこもプラスチック！」 2 レポートを書こう	○視点や根拠に注意し、情報を吟味しながら読み、図表などから必要な情報を読み取る力を身につける。 ○テーマを決め、適切な方法で情報を集め、集めた情報を根拠として、説得力のあるレポートをまとめる。	10	観察 ワークシート レポート 小テスト
	1	9. 他者を動かす 1 魅力的な企画書を書こう 2 プレゼンテーションをしよう 3 相手を動かす依頼状を書こう	○対象者を明確にし、対象者を説得することができる企画書を書く。 ○企画書に必要な要素を知り、見やすく、わかりやすい企画書をまとめる。 ○聞き手の心を動かし、目的を達成するために、構成や発表のしかたを工夫し、さまざまな資料を活用しながら発表する。 ○相手の気持ちを動かすような依頼状を書く。	10	観察 ワークシート 作品 発表 発表資料 相互評価
	3	10. 社会に目を向けて 1 「何のために「働く」のか」 「自分の考えをつくるために」	○筆者の主張を的確に読み取り、それに対する自分の意見をもつ。 ○読み取ったことをもとに、自分の考えを広げたり深めたりする。	3	観察 ワークシート 小テスト
合 計				70	
学習サポート		希望者は漢字検定、日本語検定を受験することができます。希望があれば検定対策講習も行いますので積極的に受験してください。			

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
1 学年	国語		言語文化		2	秋間 朋子		
使用教科書	新編 言語文化（大修館書店）			使用副教材	基本級別漢字			
科目の目標	言葉による見方。考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。							
育成を目指す資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
					○		○	
育成のための具体的方策	基礎学力：ワークを通して学びを確認したり、小テストを行い定着を図る。 情報活用力：ICT機器を適切に活用し、情報を収集し、整理してまとめる。 協働力、課題解決力：自らの課題を把握し、グループワークなどで他者と協働し、課題解決を目指す。							
評価規準 （到達目標）	観 点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	言葉による見方・考え方を働かせ、国語での確に理解し効果的に表現するための、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。			言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		
評価の方法	ワークシート 小テスト・定期考査		ワークシート 小テスト・定期考査			ワークシート		
単元の目標・評価規準								
単元名	ことばと出会う							
単元の目標	筆者の主張をとらえ、自分の考えを深める。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A 評価のレベル）	さまざまな季語について興味を持ち、意味や用例を調べている。 日本独自の自然観や感性について、本文以外の例を考えて考察したり、調べたりしている。			日本独特の感性について、本文中の例以外に自分でも具体例を考えている。 本文をふまえて、日本人独特の感性や自然観、美意識について、考察を深めている。			季語や日本の自然観について興味をもち、本文以外の例を考えたり調べたりしようとしている。	
単元名	古文に親しむ							
単元の目標	繰り返し音読し、古文のリズムに慣れる。古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解する。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A 評価のレベル）	各文をリズムカルに正しく音読したり暗唱したりしている。			各文の内容や作品の概要・テーマについて理解している。			音読や暗唱に進んで取り組み、続きに興味をもち読もうとしている。	
単元名	漢文に親しむ							
単元の目標	漢文の訓読のきまりについて理解する。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A 評価のレベル）	日本語との語順の違いを正確に理解し、その違いを意識しながら漢語を使いこなしている。 例文を正確に音読でき、的確に書き下し文に直すことができている。			各文について正確に内容を理解し、さらに格言などを日常会話などで積極的に使う姿勢を見せている。			教材に興味をもって意欲的に取り組み、教材以外の漢文についても積極的に読もうとしている。	
単元名	現代に生きることば							
単元の目標	故事成語の意味について、考えを深め、それぞれの話で語られている教訓の意義を理解する。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A 評価のレベル）	漢文を読むことに興味をもち、書き下し文を見ずに訓読文を読むことができている。			本文で語られている教訓について、類似の言葉や身近な例を挙げながら考えを深めている。 政治を行う際に寓話を用いて参考にしていくことに興味をもち、他の例を探したり調べたりしている。			漢文や故事成語に興味をもち、その中で現代に通ずる他の例を探したり調べたりしようとしている。。	
単元名	随筆を楽しむ							
単元の目標	音読して古文の読みに慣れ、文章の内容を正確に読み取り、作者のものの見方や感じ方について、自分の考えをもつ。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A 評価のレベル）	必要な重要古語や助動詞・助詞などについて十分に理解し、読解に活用している。			文章の種類を踏まえ、本文に表れた作者のものの見方、感じ方、考え方を深く的確に解釈している。			登場人物の言動に興味をもち、作者の考えを自分と比較したりして、自分の考えを深めようとしている。	
単元名	表現を味わう							

単元の目標	登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取り、語り手の役割や場面の展開に着目し、作品の構造を理解する。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	方言に興味をもち、自身や身近で使用されている方言を見直したり、関心のある地域の方言を調べたりしている。	この親子にとって「とんかつ」を食べることには、どのような意味があるのか考えを深めている。 物語が進むにつれて、親子に対する語り手の印象が、どのように変わっているかを説明している。	方言を使う人物の描写や登場が、他の作品でもあるかを探したり、調べたりしようとしている。
単元名	文化を見つめる		
単元の目標	日本文化の特徴について、筆者の主張をとらえ、身のまわりの例を探しながら、日本文化の特色について理解を深める。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	外国の文化知識にはない日本の文化の特質について、本文に即して説明することができている。	本文で述べられている外国の文化との対比関係を意識して、日本文化の特質について考えを深めている。 本文中の具体例に着目して、筆者の主張について考えを深めている。 本文の内容を読み取った上で、自文化と異文化のあり方についてさらに考えを深めている。	日本文化の特質に興味をもち、読書などを通してさらに詳しく調べようとしている。
単元名	詩歌の調べ		
単元の目標	それぞれの作品に描かれている情景や心情を読み取り、詩歌の形式や表現の特徴について理解を深める。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	各詩歌の形式を理解し、言葉がもつ働きについて考えを深めている。 枕詞などの修辞技法、古典特有の表現などについて理解し、作品を読み味わっている。	【書】自分の知識・体験に基づき、感じたことや発見したことを詩歌によって積極的に表現している。 【読】各作品を鑑賞し、それぞれに詠まれている作者の心情や自然観について、考えを深めている。	学習した詩歌を暗唱したり、自ら好きな作者・作品について調べたりすることで、積極的に言語文化への理解を深めようとしている。
単元名	古人に学ぶ		
単元の目標	『論語』の内容を正確にとらえ、学問と人生について孔子の考え方を理解し、孔子の思想と現代との関わりについて、自分の考えを深める。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	普段使わない漢字や現在と異なる読み方・意味の字に興味をもち、辞書等で調べている。 注釈を頼りに現代語訳を行い、解釈している。	共感できるものがあることを踏まえて、日本人が昔から漢文を教養として学んできたことの意義について考察を深めている。	『論語』に興味をもち、その中で現代に通ずる他の例を探したり調べたりしようとしている。
単元名	物語の広がり		
単元の目標	登場人物の行動や場面の展開を正確に把握し、和歌に表れた心情を読み取り、本文の中で和歌が果たしている役割を考える。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	和歌による婉曲的な恋慕の伝達について興味をもち、現代の告白のしかたと比較したり考えを深めたりしている。	当時の恋愛や結婚生活などについて読み取り、現代との相違点を考えたり調べたりしている。	和歌や物語に興味をもち、他にどのようなものがあるか探したり調べたりしようとしている。
単元名	物語を受け継ぐ		
単元の目標	小説の構成をとらえ、登場人物の心情の変化を読み取り、元になった古典作品との比較をふまえて、内容の解釈を深める。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	場面の展開を把握しながら本文を正確に音読でき、ワークシート等で新たに学んだ漢字を的確に用いている。 「羅生門」と「今昔物語集」とを比べ読みして、両者の相違点や「羅生門」の表現効果について説明している。	場面ごとに状況によって変化していく下人の心情を的確に捉えた上で、作品のテーマについて考えている。 作品の展開を把握しながら、各場面の比喻表現や情景描写の特徴について説明している。	古典からの翻案やさまざまな翻案作品との比べ読みについて興味をもち、新たな読書に対する意欲をもとうとしている。
単元名	漢文を楽しむ		
単元の目標	音読を通して、漢文訓読の口調に習熟し、豊かな人間性の表れた物語を読み味わい、表現の特徴を理解する。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	音読に際して、つまることなく読むことができている。 現在故事成語がどのように使われるかを理解した上で、身近な例を探したり考えたりしている。	自身の特技について振り返り、どのような場面で活用できるか、生徒同士で話し合ったり考えを深めたりしている。	漢文にはさまざまな逆境を打開する話があることに興味をもち、他の例を探したり調べたりしようとしている。
単元名	ことばと生きる		
単元の目標	筆者の経験や、ものの見方、考え方を的確に読み取る。読み取ったことをふまえて、自分の経験を振り返り、考えを深める。		

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	「ことばは光」とはどういう意味か、本文に即して説明している。	本文全体を四つの段落に分け、なぜそこで段落が変わるのかを的確に説明している。筆者はどのような過程を経てコミュニケーションを再構築したのか、本文に即して説明している。	筆者の歩みや言葉の働きについて関心を持ち、読書を通じて考えを深めようとしている。
単元名	旅への思い		
単元の目標	文章の展開や和歌の内容に注意して、登場人物の心情を読み取る。作品の主題と表現の特色を理解する。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	文字について興味をもち、現在まで漢字・平仮名・片仮名を使用していることについて考えを深めている。	言葉遊び部分について、どのような点におもしろさがあるのかを理解し、現在の例ではどのようなものがあるかを考えている。	当時の旅について興味をもち、旅をする上での現代との相違点を調べたり考えたりしようとしている。
単元名	近代文学に触れる		
単元の目標	場面や登場人物の設定を的確にとらえ、小説を味わう。元になった古典作品との比較をふまえて、内容の解釈を深める。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	新兵衛と若い侍の会話から二人の心情を理解し、正確に説明している。	「形」のもつ影響力について、本文をもとに考察を深め、話し合っている。元になった古典作品と読み比べ、相違点をまとめて、作者の意図や工夫について話し合っている。	元になった古典作品との比較に興味をもち、現代とのつながりについて考えを深めようとしている。

授業計画					
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4 1 ことばと出会う 「季節のことばと出会う」	○日本で受け継がれてきた自然観や美意識について、筆者の主張をとらえ、日本独特の自然の味わい方について、自分の考えを深める。	1		観察 ワークシート 小テスト
	2 古文への招待 3 児のそら寝	○古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解する。 ○繰り返し音読し、古文の読みに慣れる。	1 2		観察 ワークシート 小テスト・定期考査
	5 4 漢字と仮名の使い分け	○日本語の表記の特色について、筆者の主張をとらえる。	2		観察・ワークシート 小テスト・定期考査
	5 十二の「子」文字	○誰の発言かに注意し、物語の内容を読み取りながら、日本の言語文化についての理解を深める。	2		観察・ワークシート 小テスト・定期考査
	6 訓読のきまり/格言/再読文字	○漢文の訓読のきまりについて理解する。 ○漢語・漢文と我が国の言語文化の関係について理解を深める。	3		観察・ワークシート 小テスト・定期考査
	6 【前期中間考査】				
	7 守株	○「株を守る」という言葉の意味について、考えを深め、この話で語られている教訓の意義を理解する。	1		観察・ワークシート 小テスト・定期考査
	8 阿蘇の史	○段落ごとのまとまりを意識しながら読み、事件の展開と、登場人物の行動を読み取る。	2		観察・ワークシート 小テスト・定期考査
	9 徒然草	○音読して古文の読みに慣れ、文章の内容を正確に読み取り、作者のものの見方や感じ方について、自分の考えをもつ。	3		観察・ワークシート 小テスト・定期考査
	10 五十歩百歩	○「五十歩百歩」という言葉の意味について、考えを深め、この話で語られている教訓の意義を理解する。	2		観察・ワークシート 小テスト・定期考査
	7 11 とんかつ	○登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取る。 ○語り手の役割や場面の展開に着目し、作品の構造を理解する。	4		観察・ワークシート 小テスト・定期考査
	12 徒然草	○音読して古文の読みに慣れ、文章の内容を正確に読み取り、作者のものの見方や感じ方について、自分の考えをもつ。	1		観察・ワークシート 小テスト・定期考査
	8 13 蛇足	○「蛇足」という言葉の意味について、考えを深め、この話で語られている教訓の意義を理解する。	2		観察・ワークシート 小テスト・定期考査

9	【前期期末考査】		2	観察・ワークシート 小テスト		
	14	足し算の文化			○ 日本文化の特徴について、筆者の主張をとらえる。	
	15	詩歌の調べ			○ それぞれの作品に描かれている情景や心情を読み取り、詩歌の形式や表現の特徴について理解を深める。	
	10	16			枕草子	○ 音読して古文の読みに慣れ、文章の内容を正確に読み取り、作者のものの見方や感じ方について、自分の考えをもつ。
		17			論語	○ 『論語』の内容を正確にとらえ、学問と人生について孔子の考え方を理解し、孔子の思想と現代との関わりについて、自分の考えを深める。
		18			伊勢物語	○ 登場人物の行動や場面の展開を正確に把握し、和歌に表れた心情を読み取り、本文の中で和歌が果たしている役割を考える。
	11	19			羅生門	○ 小説の構成をとらえ、登場人物の心情の変化を読み取る。元になった古典作品との比較をふまえて、内容の解釈を深める。
	12	20			平家物語	○ 音読して文体の特徴をとらえ、登場人物の心情の変化を読み取る。
		21			鶏鳴狗盗	○ 豊かな人間性の表れた物語を読み味わい、表現の特徴を理解する。
	1	22			ことばは光	○ 筆者の経験や、ものの見方、考え方を的確に読み取り、読み取ったことをふまえて、自分の経験を振り返り、考えを深める。
2	23	土佐日記	○ 文章の展開や和歌の内容に注意して、登場人物の心情や作品の主題を読み取る。	1	観察・ワークシート 小テスト・定期考査	
	24	更級日記	○ 文章の展開に即して作者の心情を読み取る。また、当時、物語や書物がどのように享受されていたか考える。	2	観察・ワークシート 小テスト・定期考査	
	25	おくのほそ道	○ 文と句の関係に注意して、それぞれの句に詠まれた情景や心情を考える。	3	観察・ワークシート 小テスト・定期考査	
3	26	形	○ 場面や登場人物の設定を的確にとらえ、小説を味わう。元になった古典作品との比較をふまえて、内容の解釈を深める。	3	観察・ワークシート 小テスト・定期考査	
	27	人面桃花	○ 豊かな人間性の表れた物語を読み味わい、表現の特徴を理解する。	3	観察・ワークシート 小テスト・定期考査	
			合 計	70		

学習サポート	希望者は漢字検定、日本語検定を受検できます。検定対策講習も希望があれば実施しますので、積極的に受験してください。
--------	--

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
1 学年	地歴・公民科		公共		2	丸田 宏平		
使用教科書	私たちの公共（清水書院）			使用副教材				
科目の目標	現実社会の諸課題の解決に向け、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や議論する力を養う。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケ ーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	○				○		○	○
育成のための 具体的方策	基礎学力：ワークシート、定期考査、単元テスト。情報活用力：インターネットなどを活用して資料を活用。協働力・課題解決力：グループワーク等。社会形成力：ワークシート、テスト、グループワーク等。							
評価規準 （到達目標）	観 点							
	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	現代の諸課題を捉え考察し、判断の手掛かりとなる概念や理論について理解する。諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。			現実社会の諸課題の解決に向けて、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力や議論する力を養う。		現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。他者を尊重し協力し合うことの大切さについて自覚を深める。		
評価の方法	定期考査・単元テスト・ワークシート			定期考査・単元テスト・ワークシート グループワーク		ワークシート、グループワーク		
単元の目標・評価規準								
単元名	1 社会で生きるということ 2 みんなが幸せな社会とは							
単元の目標	青年期の課題や人間が社会的存在であることを理解する。自分自身が公共的な空間を作り出す一員である自覚を深め、他者と協働して社会を作り出すことの意義について多角的・多面的に考察し、表現する。行為の結果としての幸福を重視する考え方や行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを理解し、人間としての在り方生き方について探究することがよりよく生きる上で重要であることを理解する。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	青年期の課題と人間が社会的存在であること理解する。思想・伝統文化に触れ自他の価値観を尊重する。行為の結果である幸福を重視する考え方や行為の動機となる義務を重視する考え方などを理解している。			他者と協働して社会を作り出すことの意義について考察し、表現している。生命倫理や環境倫理の問題などを情報を活用して多面的・多角的に考察し、表現している。		よりよい社会の実現のため現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。人間としての在り方生き方について、よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。		
単元名	3 公共的な空間における基本原理							
単元の目標	民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など公共的な空間における基本的原理について理解する。身近な事例を通して、個人と社会との関係を多面的、多角的に考察、構想できるようにする。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など公共的な空間における基本的原理について理解している。			身近なルールなどについて個人と社会との関係を多面的、多角的に考察、構想している		公共的な空間における基本原理についてよりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。		
単元名	4 私たちの生活と法							
単元の目標	具体的事例を通して、日本国憲法の平等権、自由権、社会権、新しい人権について理解する。身近な事例を通して、契約の意義やリスクについて多面的・多角的に考察、表現できるようにする。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	日本国憲法の各権利を理解する。情報モデルと情報リテラシーを高める。			契約の意義やリスクについて多面的・多角的に考察、表現できるようにする。		法的な分野の諸課題について主体的に解決しようとしている。		
単元名	5 私たちの生活と政治							
単元の目標	国会、内閣、裁判所、地方自治、選挙のしくみと働きについて理解する。社会の紛争や自治体の課題の解決について考察、構想できるようにする。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	国会、内閣、裁判所、地方自治、選挙のしくみと働きについて理解する。			社会の紛争や自治体の課題の解決について考察、構想している。		政治的分野の諸課題について主体的に解決しようとしている。		
単元名	6 平和主義と日本							
単元の目標	日本の平和のために自衛隊や外交が果たしてきた役割を理解し、安全保障の在り方について考察する。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	日本の平和のために自衛隊や外交が果たしてきた役割と課題について理解している。			日本の安全保障、領土問題、憲法改正の在り方について考察、構想している。		日本の平和と安全保障の諸課題について主体的に解決しようとしている。		

単元名		7 私たちの生活と経済		8 私たちの生活と国際社会	
単元の目標		市場メカニズム、市場の失敗、企業の役割とはたらき、日本経済史、GDP、財政・租税のしくみなどについて理解する。市場の失敗とその対応方法について考察し、表現する。国際法、国際連合、国際機関の意義と役割を理解する。自由貿易やグローバル化がもたらす影響と社会の変化について、考察し、表現する。			
観点		知識・技能		思考・判断・表現	
評価規準 (A評価のレベル)		市場メカニズム、市場の失敗、企業の役割とはたらき、日本経済史、GDP、財政・租税のしくみについて理解する。国際法、国際連合、国際機関の意義と役割を理解する。		市場の失敗とその対応方法について考察し、表現している。自由貿易やグローバル化がもたらす影響と社会の変化について、考察し、表現している。	
授業計画					
学期 月		学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間
前期	4	1 社会で生きるということ ・ 私たちと青年期 ・ 人間の社会と文化	青年期の課題や人間が社会的存在であることを理解する他者と協働して社会を作り出すことについて考察し、表現する。世界のさまざまな宗教、思想、伝統、文化に触れ、自らの価値観を形成し、他者の価値観を尊重することができるようになる。	5	定期考査 ノート ワークシート
	5	2 みんなが幸せな社会とは？ ・ よく生きるとは？ 徳 ・ 幸福な社会とは？ 功利主義 ・ 幸福な社会とは？ 正義の原理	行為の結果である幸福を重視する考え方、行為の動機となる義務を重視する考え方を理解する。生命倫理や環境倫理の問題を考察、表現する。	6	
	6	3 公共的な空間における基本原理 ・ 民主主義、立憲主義 ・ 法はなぜ必要なのか	人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など公共的な空間における基本的原理について理解する。身近な事例を通して、個人と社会との関係を多面的、多角的に考察、構想できるようにする。	5	
	7	4 私たちの生活と法 ・ 平等に生きる権利 ・ 自由に生きる権利 ・ 人間らしく生きる権利 ・ 新しい人権	具体的事例を通して、日本国憲法の平等権、自由権、社会権、新しい人権について理解する。身近な事例を通して、契約の意義やリスクについて多面的・多角的に考察、表現できるようにする。	7	
	8	5 私たちの生活と政治 ・ 日本の統治機構 ・ 国会のしくみとはたらき ・ 内閣のしくみとはたらき ・ 行政機関としての国の役割と体制 ・ 裁判所のしくみとはたらき ・ 地方自治の役割と現状	国会、内閣、裁判所、地方自治、選挙のしくみと働きについて理解する。社会の紛争や自治体の課題の解決について考察、構想できるようにする。	16	
	9				
		【前期期末考査】 ・ 選挙のしくみ ・ 政党と政治参加			
	10	6 平和主義と日本 ・ 日本の平和主義と憲法 ・ 日本の外交と平和な社会の構築	日本の平和のために自衛隊や外交が果たしてきた役割を理解し安全保障の在り方について考察する。	5	
	11	7 私たちの生活と経済 ・ 私たちの生活と経済活動 ・ 市場経済のしくみ ・ 企業の経済的役割 ・ 国民所得 ・ 政府の経済的役割 ・ 税金と国債 ・ 金融機関の役割 ・ 労働と雇用 ・ 社会保障制度の意義	市場メカニズム、市場の失敗、企業の役割とはたらき、日本経済史、GDP、財政・租税のしくみなどについて理解する。市場の失敗とその対応方法について考察し、表現する。	16	
	2	8 私たちの生活と国際社会 ・ 国際社会と国際法 ・ 国際連合と国際機関 ・ 平和で持続可能な社会をつくる	国際法、国際連合、国際機関の意義と役割を理解する。自由貿易やグローバル化がもたらす影響と社会の変化について、考察し、表現する。	10	
				合 計	70
学習サポート		プリント提出があります。時々グループワークを実施します。			

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
1 学年	数学		数学		3	堀崎 裕史・遠山 海翔		
使用教科書	新 高校の数学 (数研出版)			使用副教材		パラレルノート 数学 (数研出版)		
科目の目標	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解させるとともに，事象を数学化したり数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身につける。また，数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断する態度の基礎を養う。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
							○	
育成のための 具体的方策	【基礎学力】 各小単元の確認プリント，各単元テストを通して基礎的，基本的な知識と計算能力が身に付いたかを確認する							
	【情報活用力】 建物の高さ，データ資料などを数理的に捉え，数学的に処理し，問題を解決する数的活動を取り入れる							
	【協働力・課題解決力】 グループ演習を通して問題解決の過程を振り返り，考察を深めたり改善したりしようとする態度を養う							
	観 点							
評価規準 (到達目標)	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	・ 数学の基本的な言葉、法則、定理及び公式を正しく理解し、必要のある場面で活用することができる ・ 数理的に考察し処理することのよさや既習事項などを体系的に整理し活用できる ・ 数学的な見方や考え方を生かし自分から工夫して問題や物事を数学の公式や表し方を使って、解いたり表したりすることができる ・ 設定した数学的な課題を既習事項や公理・定義等を基にして分析・整理し、数学的に考察したことを明確に表現することができる		・ 数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりすることができる ・ 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論的に考察し表現することができる ・ 関数関係に着目し、事象を的確に表現して、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる ・ データの散らばりや変数の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果をを批判的に考察し判断したりすることができる			・ 授業に積極的に取り組み、身近な事象を数学化し、積極的に数学を活用しようとする ・ 多面的にものを見たり、数学的論拠に基づいて試行錯誤しながら粘り強く考えようとする ・ 主体的に数学的な見方や考え方のよさを学ぼうとする ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする		
評価の方法	授業課題・単元テスト		授業課題・単元テスト・提出物・グループワーク・発表			授業課題・単元テスト・提出物・グループワーク・発表		
単元の目標・評価規準								
単元名	1 章 数と式 1．整式							
単元の目標	・ 文字式の決まりや整数式の四則計算を理解する。 ・ 展開や因数分解の式変形を正しく行う。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	・ 乗法公式や因数分解の公式などを目的に応じて処理することができる。 ・ 見通しを持って式を展開し、因数分解することができる。 ・ 符号を用いた基本計算を正しく行うことができる。 ・ 乗法公式や因数分解の公式の意味を理解している。		・ 特定の文字に着目し、式を1つの文字で置き換え、いろいろな式の見方をすることができる。 ・ 式の展開と因数分解の相互の関係を理解する。			・ 数の基本計算に関心を持ち、目的に合わせて式を変形しようとする。 ・ 複雑な式の展開や因数分解では、置き換えや式の変形などを利用しようとする。		
単元名	1 章 数と式 2．実数							
単元の目標	・ 平方根の基本的な考え方や性質、計算を理解し活用する。 ・ 実数の種類について理解する。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		

評価規準 (A評価のレベル)	- 平方根を含む式の四則計算ができる - 絶対値の定義をもとに、絶対値記号を含む式の計算ができる。 - 自然数、整数、有理数、無理数の意味が分かり、正確に区別できる。 - 数を実数まで拡張することの意義を理解している。	実数と数直線上の点との対応関係を理解し、実数の大小関係の考えが分かる。	平方根や絶対値の意味を理解し、その利便性に関心を持ち、計算に取り組む。
単元名	1章 数と式 3. 方程式と不等式		
単元の目標	1次方程式、1次不等式及び連立不等式の解を求められるようになる。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	- 方程式及び不等式の式変形を正しく行い、目的に応じた形に直すことができる。 - 方程式及び不等式の式変形に関する決まりがなぜ成り立つのか、その意味を理解し、正しく計算を行うことができる。	- 数直線を用いて、数の大小関係を正しく理解し、不等式の解が「範囲」であることが分かる。 - 不等式を実生活に結びつけることができる。	- 方程式及び不等式の利便性に関心を持ち式の変形に取り組む。 - 実生活と結びつけることの有用性に関心を持つ。
単元名	2章 2次関数 1. 関数とグラフ 2. 2次関数の値の変化		
単元の目標	1次関数の復習と2次関数の基礎を理解する。 1次関数及び2次関数のグラフをかけるようになる。 2次関数を平方完成することができる。 2次関数の最大値、最小値を求められるようになる。 2次方程式及び2次不等式の解を求めることができるようになる。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	- 関数の表から正しくグラフをかくことができる。 2次関数の式を標準形に変形することができる。 - 関数の定義を正しく理解し、表及びグラフを正しくかくことができる。 - グラフの平行移動について正しく理解する。 - グラフから最大値、最小値を読み取ることができるとともに、不明な場合は計算で正しく求めることができる。 2次不等式の解を適切に処理することができる。 - 定義域と値域の関係を正しく理解し、答えられるようになる。 2次関数のグラフとx軸との共有点、2次不等式の関係を正しく理解し、目的の解を求めることができる。	- 関数の表や式、グラフなどを用いて実生活における課題を考察することができる - 情報端末機器等を利用して、2次方程式や2次不等式の解について、グラフとx軸との位置関係を利用して多面的に調べることができる	- 関数とそのグラフについて、その利便性に関心をもつ。 1次関数、2次関数それぞれのグラフを利用して、定義域に対する値域を調べようとする。 - 方程式の解の個数や不等式の解を求める際に、2次関数のグラフを積極的に利用しようとする。
単元名	3章 三角比 1. 三角比 2. 三角比の応用		
単元の目標	- 三平方の定理を復習し、直角三角形に利用できるようにする。 - 三角比の基礎を理解し、様々な角度で活用できるようにする。 - 鈍角における三角比の値を正しく求めることができる。 - 三角比の定理を利用して身近な事象に取り入れ活用する。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	- 直角三角形を用いて考えられる計量問題を、三角比の記号を用いて表現し処理することができる。 - 正弦定理や余弦定理を既習の三角形に関する性質と結びつけ、辺の長さや角の大きさを求めることができる。 - 鋭角の三角比と直角三角形の辺の比との関係を理解している。 - 三角比の拡張や相互関係、定理など正しく理解し、基本的な知識を身に付けている。	- 実生活の中にある課題に対して三角比を用いて、考察をすることができる。 - 目的のためには何を用いれば良いか整理して、解を導けるようになる。	- 三角比に関心をもち、また拡張することの利便性に気付き、図形の計量に用いようとする。 - 三角比の相互関係に関心をもち、図や表を用いて調べようとする。
単元名	4章 集合と論理 1. 集合 2. 命題と証明		
単元の目標	- 集合の基本的な考え方を理解し、記号で表すと共に、ベン図で図示できるようになる。 - 命題の真偽を正しく判断することができる。 - 命題の逆、裏、対偶を正しく理解する。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	- 集合をベン図や要素を書き並べる形で正しく表すことができる。 - 条件の否定、命題の逆・裏・対偶を理解し、真偽を判定することができる。 - 集合と命題に関する基本的な概念及び用語、記号について正しく理解している。 - 条件の否定、命題の逆・裏・対偶について理解している。	- 実生活の中から集合の考え方をを用いて、事象を単純化し、事象間の関係について考察できる。 - 命題の真偽と集合の包含関係を関連付けて考察し、簡単な命題を証明することができる。	- 具体的な事象について、集合で表す利便性を感じ、関心を持つ。 - 命題に関心をもち、集合の包含関係と関連付けて調べようとする。
単元名	5章 データの分析 1. データの分析		
単元の目標	統計とグラフ、データの分析について正しく理解する。		

観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)		・コンピュータを利用して、適切にデータを整理，分析できる。 ・データの分析にあたって，適切に箱ひげ図や散布図を活用できる。 ・統計に関する用語を正しく理解し，計算で求めることができる。 ・データの整理に関して，適切なグラフを利用できる。	・実生活の中で仮説検定の考え方をを用いて考察することができる。 ・データの種類や目的に応じて適切に整理，分析し，データの特徴や傾向などを考察することができる。	・四分位偏差，分散，標準偏差，散布図，相関係数などについてその利便性に関心を持ち，用語・定義式などを進んで学ぼうとする。		
授業計画						
学期 月	学習項目		学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4 5	1 章 数と式 1 . 整式 [単元別試験]	・文字式のきまり ・整式 ・整式の加法・減法 ・整式の乗法 ・乗法公式による展開 ・因数分解	15		小テスト 課題等の提出物 単元別試験 グループ活動での 取り組み状況
	6	2 . 実数 [単元別試験]	・平方根とその計算 ・実数	3		小テスト 課題等の提出物 単元別試験 グループ活動での 取り組み状況
	7 9	3 . 方程式と不等式 [単元別試験]	・1次方程式 ・不等式 ・不等式の性質 ・1次不等式 ・連立不等式 ・不等式の応用	5		
後期	9 10	2 章 2次関数 1 . 関数とグラフ [単元別試験]	・1次関数とそのグラフ ・2次関数とそのグラフ	18		小テスト 課題等の提出物 単元別試験 グループ活動での 取り組み状況
	11	2 . 2次関数の値の変化 [単元別試験]	・2次関数の最大値、最小値 ・2次関数のグラフと2次方程式 ・2次関数のグラフと2次不等式	12		
	11 12 1	3 章 三角比 1 . 三角比 [単元別試験] 2 . 三角比の応用 [単元別試験]	・三角形 ・三角比 ・三角比の利用 ・三角比の相互関係 ・三角比の拡張 ・三角形の面積 ・正弦定理 ・余弦定理 ・正弦定理と余弦定理の利用	20		小テスト 課題等の提出物 単元別試験 グループ活動での 取り組み状況 実験レポート（校舎の計量）
	2	4 章 集合と論理 1 . 集合 2 . 命題と証明 [単元別試験]	・集合と要素 ・命題 ・いろいろな証明	20		小テスト 課題等の提出物 単元別試験 グループ活動での 取り組み状況
	3	5 章 データの分析 1 . データの分析 [単元別試験]	・統計とグラフ ・度数分布表とヒストグラム ・代表値 ・データの散らばり ・仮説検定の考え方 ・相関関係	12		小テスト 課題等の提出物 単元別試験 実験レポート グループ活動での 取り組み状況
合 計				105		
学習サポート		○TTまたは習熟度別少人数クラスの授業を展開することで個々の学力に合わせたサポートを行う。 ○必要最低限のノートとメモで済むような授業プリントの工夫。 ○ICT機器を利用した見やすく、理解しやすい授業内容。 ○自主学习に役立つ「Studyaid Viewer」や「スタディサプリ」の日常的な活用。				

学年・コース		教科		科目		単位数		担当者		
1 学年		理科		科学と人間生活		2		早乙女 宙士		
使用教科書		科学と人間生活（東京書籍）				使用副教材		ニューサポート科学と人間生活		
科目の目標		自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な現象に関する観察、実験などを通して理解し、科学的な見方や考え方を身につけるとともに科学に対する興味・関心を高める。								
育成を目指す 資質・能力		基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力	
			○			○				
育成のための 具体的方策		・定期考査や単元小テストでの基礎学力の定着を確認する。 ・グループワークや実験を通して協働力や課題解決能力を身につけ、発表を通して表現力やコミュニケーション力を養う。								
評価規準 （到達目標）		観点								
		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
		授業や観察、実験等を通して物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。		物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。			日常生活や社会との関連を計りながら物質とその変化について関心を持ち、主体的、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方が考え方を身につけている。			
評価の方法		定期考査、単元テスト、実験・観察			定期考査、単元テスト、発表			授業・実験・グループワークへの取り組み姿勢		
単元の目標・評価規準										
単元名		1 編生命の科学 1 章微生物とその利用								
単元の目標		微生物とは何かを学習し、その特徴や性質を理解するとともに、微生物のはたらきと人間生活の関わりを理解し微生物利用の可能性について考えることができる。								
観点		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）		・微生物についてその特徴や性質を理解し、自然界ではたらきについて適切に説明できる。			・微生物が生活の中でどのように利用されているか理解し、微生物利用の可能性について考察することができる。			・微生物と環境について興味・関心をもって知識の定着に主体的に取り組んでいる。		
単元名		2 編物質の科学 1 章材料とその利用								
単元の目標		金属のプラスチックの性質について学び、その違いを理解してどのように活用されているか把握できるとともに、資源の有効利用について考え、SDGsについて議論することができる。								
観点		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）		・金属やプラスチックの特徴と性質を正しく理解している。			・資源の再利用について考察し、持続可能な社会発展に必要な科学的要素を議論して、発表することができる			・知識の習得に主体的に取り組むとともに、積極的に議論に参加し、発表の中で自分の役割をしっかりと果たしている。		
単元名		3 編光や熱の科学 2 章熱の性質とその利用								
単元の目標		熱とは何かを理解し熱の性質と生活との関わりについて理解を深め、安全・快適・効率的に熱を利用する方法を思案できる。								
観点		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）		・熱とは何かを理解し、熱量や比熱、熱量保存の式を用いて正しく計算することができる。			エネルギーと熱の関係について正しく思考することができる。			・熱の性質について興味・関心をもって知識の定着に主体的に取り組んでいる。		
単元名		4 編宇宙や地球の科学 2 章自然景観と自然災害								
単元の目標		自然景観がどのように形成されているのかを理解し、移り変わる中で自然災害が起こることもあるため、その仕組みを理解し様々な自然災害に対策を考えることができる。								
観点		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）		・自然景観の成り立ちを理解し、自然災害の種類や原因、被害について説明することができる。 ・ハザードマップを適切に読み取ることができる。			・自然災害への対応策について適切に思考し、議論することができる。			・グループワークや議論に主体的に取り組む、周囲と協働してより良い方策を導けるよう努力している。		
授業計画										
学期 月		学習項目			学習内容			予定 時間	実施 時間	評価方法
前期 後期	4	微生物とその利用			身のまわりの微生物			20		・授業への主体的な取り組み ・グループワークへの取り組み ・定期考査 ・単元テスト ・実験への取り組み ・発表の内容を観点別に見て、
	5				微生物の利用			19		
	6	材料とその利用			金属の性質とその再利用					
	7				プラスチックの性質とその再利用					
	8				資源の再利用とSDGs					
	9	熱の性質とその利用			熱とは何か			14		
	10									
	11									
	12	宇宙の景観と自然災害			地形の成り立ち					
	1				自然災害と防災					
2				自然災害との付き合い方、Doはぐ						

	3				総合的に判定します。
			合 計	70	
学習サポート		授業で使用するもの ・教科書・ノート・筆記用具（黒・赤・青＋α）←図をいっぱい書きます 注意点 ・幅広い分野の学習になります。復習の部分もあるので、基礎力を身につけましょう。			

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
1 学年	保健体育		体育		3	矢野 晋太郎		
使用教科書				使用副教材				
科目の目標	運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる科目である。							
育成を目指す資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
				○	○			
育成のための具体的方策	・計画に沿って授業を進め、授業の振り返りやポイントを明確にする。 ・グループワーク、ペアワークを用い、主体的・協働的な活動を取り入れる。・スキルテスト							
評価規準 (到達目標)	観 点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続できるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。			運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、主体的に学習に取り組もうとしている。		
評価の方法	・スキルテスト ・課題の取り組み状況		・授業に対する姿勢 ・課題の取り組み状況			・授業に対する姿勢 ・課題の取り組み状況		
単元の目標・評価規準								
単元名	体づくり運動							
単元の目標	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じ運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	体の構造、運動の原則などを理解している		自己の課題に応じて適切な条件を設定している。			互いの体力の違いに配慮し、意欲的に活動に取り組もうとしている。		
単元名	球技 バレーボール							
単元の目標	自チームや相手チームの特徴に応じた作戦を立てて、勝敗を寄贈楽しさや喜びを味わい、状況に応じたパス、アタックなどのボールコントロールを身に付け、ゲームを展開できるようにする。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	・特性に応じた技術の構造や技能を高めるための効果的な方法を理解している。 ・特性に応じた基本的な技能ができ、作戦を活かした攻防を展開できる。		技能に応じた課題を設定し、解決に必要な練習やゲームの仕方を見つけることができる。			互いに協力し勝敗を競い合いながら、楽しさや喜びを味わい、安全を確保しながら主体的に活動に取り組もうとしている。		
単元名	陸上競技（短距離走、長距離走、投てき）							
単元の目標	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わうとともに、技能を高め、より速く走れるようにする。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	・陸上競技に関して学習した具体例について理解している。 ・記録の向上に向けた体力の高め方を理解することができる。		自己の課題に応じた運動の行い方を見つけることができる。			自分の記録を更新するため、主体的に活動に取り組もうとしている。		
単元名	ダンス（リズムダンス、創作ダンス）							
単元の目標	積極的に取り組むとともに、イメージをとらえた表現や踊りを通した交流によって仲間とのコミュニケーションとる。また、分担した役割を果たし、互いの違いや良さを認めたりできるようにする。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	・様々なダンスの特徴や表現の仕方の違いを理解することができる。 ・テーマに合った動きを選択し、ダンスを創作することができる。		・自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて工夫することができる。 ・即興的な表現や個性をいかした表現を用いながら、ダンスを創作することができる。			・自己や仲間の課題の解決に向けて粘り強く取り組むことができる。 ・自己や仲間の課題の解決に向けて粘り強く取り組むことができる。		
単元名	球技 ソフトボール							
単元の目標	状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって、攻防を展開することができるようにする。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	・攻撃側と守備側に分かれ、攻防を競い合う特性や技能を高める方法を理解している ・状況に応じたバット操作やボール操作、守備をすることができる。		技能に応じた課題を設定し、解決に必要な練習やゲームの仕方を見つけることができる。			互いに協力し勝敗を競い合いながら、楽しさや喜びを味わい、安全を確保しながら主体的に活動に取り組もうとしている。		
単元名	球技 バスケットボール							

16

単元の目標	自チームや相手チームの特徴に応じた作戦を立てて、勝敗を寄贈楽しさや喜びを味わい、状況に応じたパスやドリブル、シュートなどのボール操作を身に付け、チームメイトと連携した動きを高めて、ゲームを展開できるようにする。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	・ 攻防の中でシュートを楽しむ特性や、技能を高める方法を理解している。 ・ 特性に応じた基本的な技能ができ、作戦を活かした攻防を展開できる。	技能に応じた課題を設定し、解決に必要な練習やゲームの仕方を見つけることができる。	互いに協力し勝敗を競い合いながら、楽しさや喜びを味わい、安全を確保しながら主体的に活動に取り組もうとしている。		
単元名	球技 バドミントン				
単元の目標	自分のペアや相手のペアの特徴に応じた作戦を立てて、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、各種ストローク・サービスなどの安定したシャトル操作や、ダブルスにおけるパートナーとの連携した動きを高めて、ゲームを展開できるようにする。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	・ ネット型種目の特性や個人やペアの技能を高める合理的な練習法を理解している ・ 各種フライトやサーブ技能、連携の仕方を身に付け、練習やゲームができる。	相手との攻防にあった作戦を立てたり、練習やゲームで新しい課題を見つけることができる。	互いに協力し勝敗を競い合いながら、楽しさや喜びを味わい、安全を確保しながら主体的に活動に取り組もうとしている。		
単元名	スキー				
単元の目標	基本的なスキー理論を理解し、安全なスキー技術を習得することができるようにする。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	・ 運動の行い方を知るとともに、技術の名称を理解している。 ・ 斜面でスピードをコントロールしながら、曲がったり、止まったりすることができる。	技能に応じた課題を設定し、斜面に応じた滑り方を工夫している。	公共のマナーや安全に気をつけてスキーの楽しさや喜びを味わうことができ、主体的に学習に取り組もうとしている。		
単元名	体育理論				
単元の目標	運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組むことができるようにする。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	運動・スポーツが多様であることについて理解している	必要な情報を、比較したり分析して考えをまとめることができる。	主体的に学習に取り組もうとしている。		
授業計画					
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4	体づくり運動	集団行動、新体力テスト、体力を高めるための運動等	3	授業観察 スキルテスト 課題の取り組み ワークシートの記載内容
	4・5	球技 バレーボール	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サービス等	12	
	5・6	陸上競技	短距離走・長距離走、投てき	12	
	6・7	ダンス	ヒップホップ、ロック、創作等	12	
	7・8・9	球技 ソフトボール	キャッチボール、バッティング、フィールディング、ゲーム等	12	
後期	9・10	球技 バasketボール	ドリブル、パス、シュート、ゲーム等	10	
	11	球技 バドミントン	各ストローク、ゲーム	10	
	12	体づくり運動	体力を高めるための運動等	6	
	1	武道（柔道）	礼法・受け身全般・寝技・投げ技等	12	
	2	武道（柔道）、スキー	スキーの基本動作（方向転換・登行・滑走など）	12	
	3	体育理論	スポーツの歴史・特性など	4	
			合 計	105	
学習サポート		・ 欠席、遅刻、忘れ物をしない。 ・ 積極的に参加し、運動に興味、関心をもって取り組むこと。 ・ どの競技に関しても安全面を留意して運動に取り組むこと。 ・ 運動ができるかどうかだけでなく、総合的に判断し評価する。 ・ 授業は学校指定の体操着以外は認めない。（参加不可、見学の扱い） ・ 防寒としてインナーの着用は認めるが指定シャツの下に着ることとする。 ・ 見学であっても学校指定の体操着を着用すること。 ・ 見学の回数が3回ごとに補習を行う。 ・ 見学の回数が実時間数の20％を超えた場合は、履修の認定が難しくなる。 （怪我等で参加できない場合は除く） ・ 周囲と協力できない、指示に応じない場合は評価の大きな減点とする。 ・ スキー授業の際は、ウェアと小物については各自で用意すること。 ・ スキーセット（スキー、ブーツ、ストック）については、レンタル可能。			

学年・コース	教 科	科 目	単位数	担当者					
1 学年	保健体育	保健	1	矢野 晋太郎					
使用教科書	現代高等保健体育		使用副教材	現代高等保健体育 ノート					
科目の目標	社会の急激な変化により、現代社会における健康・安全の問題は多様化しており、国民全てにとって心身の健康の保持増進が大きな課題となってきた。これらの解決に向けて、健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を学習することにより、健康問題を認識し、適切に対処できる能力を養う科目である。								
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力	
			○		○			○	
育成のための 具体的方策	・テストによる基礎学力の確認 ・グループワーク、ロールプレイング、ブレインストーミングなどの実施と発表 ・ワークシートの活用								
評価規準 (到達目標)	観 点								
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、応急手当の知識・技能を身に付けている。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。			生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。			
評価の方法	確認テスト、ワークシート 応急手当の実技と振り返り		確認テスト、ワークシート グループワークなどの実施と発表			授業に取り組む姿勢 課題・提出物の取り組み			
単元の目標・評価規準									
単元名	1 単元 現代社会と健康								
単元の目標	現代の健康問題や新しい時代の健康の考え方について理解する。								
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準 (A 評価のレベル)	基本的な概念、原理などの知識に加え、発展的な概念なども正しく理解している。		健康についての自他や社会の課題を発見し、その解決に向けて思考・判断したことを、他者にわかりやすく伝えることができる。			日頃から健康・安全について考えることができ、主体的に学習に取り組もうとしている。			
単元名	2 単元 安全な社会生活								
単元の目標	交通事故、その他の事故、自然災害、犯罪などへの備えについて理解する。 応急手当に関する知識や技能を身に付ける。								
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準 (A 評価のレベル)	基本的な概念、原理などの知識に加え、発展的な概念なども正しく理解している。 応急手当の知識・技能を正しく身に付けている。		安全な社会づくりについての自他や社会の課題を発見し、その解決に向けて思考・判断したことを、他者にわかりやすく伝えることができる。			日頃から安全な社会づくりについて考えることができ、応急手当の学習に主体的に取り組もうとしている。			
授業計画									
学期 月	学習項目		学習内容				予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	1 単元 現代社会と健康		・座学						確認テスト ワークシート 課題の提出
	4	01 健康の考え方と成り立ち	・確認テスト				2		
		02 私たちの健康のすがた	・ワークシート				1		
	5	03 生活習慣病の予防と回復	・調べ学習				1		
		04 がんの原因と予防	・グループワーク				1		
		05 がんの治療と回復	・実技（応急手当等）				1		
	6	06 運動と健康					1		
		07 食事と健康					2		
	7	08 休養・睡眠と健康					1		
		09 喫煙と健康					1		
		10 飲酒と健康					1		
	8	11 薬物乱用と健康					1		
	9	12 精神疾患の特徴					1		
		13 精神疾患の予防					2		
後期		14 精神疾患からの回復					2		
	10	15 現代の感染症					1		
		16 感染症の予防					1		
		17 性感染症・エイズとその予防					1		
	11	18 健康に関する意思決定・行動選択					2		

	19	健康に関する環境づくり		2		
	2	単元 安全な社会生活		1		
12	01	事故の現状と発生要因		1		
	02	安全な社会の形成		1		
1	03	交通における安全		1		
2	04	応急手当の意義とその基本		2		
	05	日常的な応急手当		2		
3	06	心肺蘇生法		2		
			合 計	3 5		
学習 サポート ・欠席、遅刻、忘れ物しない（評価の対象） ・授業では板書やプリント等を利用します。ノートは保健体育ノートを使用すること。 ・ノート等の提出物を年間数回課す。提出遅れや不完全な状態の提出は評価の対象としない。完全な状態で提出すること。 ・忘れ物が重なった場合は減点評価を行うとともに、別途課題の提出等を課す。 ・定期考査、または単元テストは、30点未満を赤点とする。 ・赤点者は追認指導までの間に課題の提出、または放課後に課題を取り組む処置を取ることがある。						

学年・コース	教科	科目		単位数	担当者			
1 学年	芸術	音楽		2	菅原 雄一郎			
使用教科書	音楽 改訂版『Tutti+』(教育出版)			使用副教材	-			
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	○		○		○			
育成のための 具体的方策	育成のための具体的方策 ペアやグループなどで協力して粘り強く試行錯誤し、演奏を完成させる。 音楽理論の復習を通し、演奏や鑑賞に最低限必要な知識を身につける。 様々な音楽の鑑賞を通して表現や価値観の多様性に触れ、自らの考えや意図を表現し評価するための土台を作る。 音楽(楽譜)上のルールを確認し、守りながら、集団で活動する。 タブレットの録画機能で自身の演奏を客観的に評価する。							
評価規準 (到達目標)	観点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。		音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように表現するのかについて音楽表現を持ったり、音楽を評価しながら、良さや美しさを味わったりしている。			音や音楽、音楽文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の学習に取り組んでいる。		
評価の方法	主に実技試験、単元テストで評価		主に取組内容、ワークシートで評価			主にワークシート、授業中の取り組みで評価		
単元の目標・評価規準								
題材名	鑑賞・歌唱・創作：校歌							
目標	校歌を覚え、慣れ親しむ。基本的な歌唱法を習得する。基本的な楽典の内容を理解し、読譜力を身につける。知識、技能を活かし、イメージを持って創作する。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	音を連ねたときの響きや音型などの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏をする技能を身に付け、創作で表している。		旋律を知覚し、その働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽を表現するかについて意図をもっている。 旋律を知覚し、その働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲に対する評価とその根拠、及び自分にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。			旋律の変化と雰囲気の変化との関わりに関心をもち、主体的・協働的に創作と鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 曲種に応じた発声、視唱、歌詞及び曲想に関心をもち、意欲的、主体的に歌唱表現し、その喜びを味わおうとする		
題材名	器楽：アルトリコーダー独奏							
目標	基本奏法を習得し、ハーモニーを感じながら演奏する。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。		音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫している。			楽器(和楽器を含む)の特徴や奏法の違い、楽曲にふさわしい音高、美しい音色に関心をもち、意欲的に表現している。		
題材名	鑑賞：日本の民謡と世界の歌							
目標	音楽ごとの歴史的背景や種類、特徴、違い等について学び、音楽的特徴に耳を傾けながら味わって鑑賞する							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。		旋律を知覚し、その働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲に対する評価とその根拠、及び自分にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。			楽曲を成立させた時代の文化・社会などの状況による様式の特徴に関心をもち、意欲的に聴いている。 我が国の伝統音楽(郷土の伝統音楽を含む)における構造、発声法・歌唱法、楽器及びその奏法、記譜法、唱歌や調弦法などに関心をもち、主体的に楽曲を聴き取っている。		
題材名	鑑賞：舞台芸術							
目標	舞台芸術ごとの歴史的背景や特徴、違い等について学び、音楽的特徴に耳を傾けながら味わって鑑賞する							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		

評価規準 (A 評価のレベル)	音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。	旋律を知覚し、その働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲に対する評価とその根拠、及び自分にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	楽曲の中で相互に関連し合うの響きに関心をもち、鑑賞する喜びを味わおうとする。		
題材名	歌唱：ドイツ語歌曲				
目標	ドイツ・リートに親しみ、発声や表現を工夫しながら歌えるようになる。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	音楽の構造と歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。	旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲に対する評価とその根拠、及び自分にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	楽曲における作曲者の人間像、芸術家像、諸作品の中の位置などによる様式の特徴に関心をもち、意欲的に聴いている。 言葉のもつ語感、それにふさわしい子音・母音の配分や鼻濁音の程度に関心をもち、主体的に表現している。		
題材名	鑑賞：世界の音楽				
目標	音楽ごとの歴史的背景や種類、特徴、違い等について根拠を持って分析し、それぞれの違いに耳を傾けながら味わって鑑賞する。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	声を用いた様々な音楽における固有の発声法・発声法・歌唱法などに関心をもち、主体的に聴いている。 様々な楽器における材質、形態、発音の機構、奏法に関心をもち、主体的に聴いている。		
題材名	創作：ヴォイスアンサンブル				
目標	言葉の響きやリズムを理解し、ヴォイスアンサンブルに親しむ。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫している。	旋律と言葉との関係に関心をもち主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。		
題材名	鑑賞：校歌、日本と世界の国歌				
目標	音楽ごとの歴史的背景や種類、特徴、違い等について学習し、様々な国の文化を尊重できるようになる。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	楽曲を成立させた時代の文化・社会などの状況による様式の特徴に関心をもち、意欲的に聴いている。		
授業計画					
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	鑑賞・歌唱・創作：校歌	校歌の歌詞を覚え、メロディーに慣れ親しんで歌う。 音階の特徴を生かし、音楽を形づくっている要素の働きや構成を工夫して、自己のイメージにあった音楽をつくる。	12		観察法 提出物 実技テスト 定期考査問題
	器楽：アルトリコーダー独奏	音符と休符、音名、強弱、速度、五線譜の読み方について理解する。リコーダーの基本的な奏法を学び、音色や奏法の特徴を生かし、曲想にあった音楽表現を工夫しながら演奏する。	10		観察法 実技テスト 定期考査問題
	鑑賞：日本の民謡	日本の民謡の特徴を理解し、それらの文化的・歴史的背景に関心をもち、そのよさや価値について考え味わう。	4		観察法 提出物 定期考査問題
	鑑賞：舞台芸術	オペラ・ミュージカルの舞台芸術の特徴を理解し、それらの文化的・歴史的背景に関心をもち、そのよさや価値について考え味わう。	6		観察法 提出物 定期考査問題
	前期期末考査		1		
	歌唱：ドイツ語歌曲	言語の特徴をとらえ、歌詞と旋律の結びつきを考えながら明確な表現意図をもって歌う。	10		観察法 実技テスト 定期考査問題
	鑑賞：世界の音楽	世界各地の音楽の特徴を理解し、それらの文化的・歴史的背景に	6		観察法

		創作：ヴォイスアンサンブル	関心をもって、そのよさや価値について考え味わう。	12		提出物 定期考査問題 観察法 実技テスト
		学年末考査	グループを作って一人ひとりの役割を決め、言葉の響きやリズムの特徴を生かしながら、全体の響きに気をつけてヴォイス・アンサンブルを行う。	1		
		鑑賞：日本と世界の国歌	歌詞の内容と国の成り立ちなどから国歌の位置づけや国際マナーについて考える。	3		観察法
合 計				70		
学習上の注意点		全員が気持ちよく学習に臨めるように、授業マナー 6 箇条を徹底しましょう。教科書の他に <u>筆記用具</u> 、 <u>アルトリコーダー</u> を各自用意してください。				
学習サポート		授業内容に関する質問はいつでも受け付けます。				

学年・コース	教科	科目		単位数	担当者			
1学年	外国語科	英語 コミュニケーションⅠ		3	沼田 裕樹			
使用教科書	All Aboard! I (オールアボード)			使用副教材	夢をかなえる英単語0 夢をかなえるリスニング0 オールアボードブリッジワーク			
科目の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
育成を目指す資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	◎	◎			○		○	
育成のための具体的方策	基礎学力:教材等を用い、英語を活用した学習を行う。 コミュニケーション能力:グループワークを通じた活動や発表を行う。また、日々の授業において英語でのやりとりを行う。							
評価規準 (到達目標)	観点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	英語の特徴やよさに関する事項を理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて日常的な話題や社会的な話題について聞く、読むなどしてその内容を捉えたり、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して伝え合う、発表する、書くなどの技能を身に付けている。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について必要な情報を聞き取り、話し手・書き手の意図や概要、要点を捉えたり、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理的に注意して発表したり、書いたりして伝えている。			外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手・書き手・聞き手・読み手に配慮しながら、主体的、自立的に英語を活用しようとしている。		
評価の方法	ペーパーテスト パフォーマンステスト(LRWS)		ペーパーテスト パフォーマンステスト(LRWS) 発表、話し合い等の多様な活動			言語活動やパフォーマンステスト等への取組ワーク等の学習の取組		
単元の目標・評価規準								
単元名	Lesson1 Breakfast around the World							
単元の目標	○世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違について理解する ○動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解する ○好きな食べ物について、英語で述べる							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	○好きな食べ物について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめるにあたり、自発的に考え、教師の助言・助力などがなくても、自分の考えや好み、その理由などを整理して話したり、まとまりのある文章を書いたりすることができる。(2文以上)		○好きな食べ物について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめるにあたり、自発的に考え、教師の助言・助力などがなくても、自分の考えや好み、その理由などを整理して話したり、まとまりのある文章を書いたりしている。(2文以上)			○好きな食べ物について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめるにあたり、自発的に考え、教師の助言・助力などがなくても、自分の考えや好み、その理由などを整理して話したり、まとまりのある文章を書いたりしようとしている。(2文以上)		
単元名	Lesson2 Australia's Cute Quokkas							
単元の目標	○オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて理解する ○進行形(be 動詞＋動詞の～ing 形)を用いた文の形・意味・用法を理解している ○好きな動物について、英語で述べる							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	○好きな動物について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめるにあたり、自発的に考え、教師の助言・助力などがなくても、自分の考えや好み、その理由などを整理して話したり、まとまりのある文章を書いたりすることができる。(2文以上)		○好きな動物について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめるにあたり、自発的に考え、教師の助言・助力などがなくても、自分の考えや好み、その理由などを整理して話したり、まとまりのある文章を書いたりしている。(2文以上)			○好きな動物について、相手の意見を知り、自分の意見をまとめるにあたり、自発的に考え、教師の助言・助力などがなくても、自分の考えや好み、その理由などを整理して話したり、まとまりのある文章を書いたりしようとしている。(2文以上)		
単元名	Lesson3 A Train Driver in Sanriku							
単元の目標	○被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える ○助動詞:can, will を用いた文の形・意味・用法を理解する ○ある場所への行き方とそこでできることについて、英語で述べる							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	○ある場所への行き方とそこでできることについて、相手の意見を知り、自分の意見をまとめるにあたり、自発的に情報を収集し、教師の助言・助力などがなくても、情報や考え・気持ちなどを整理して話したり、まとまりのある文章を書いたりすることができる。(1文以上)		○ある場所への行き方とそこでできることについて、相手の意見を知り、自分の意見をまとめるにあたり、自発的に情報を収集し、教師の助言・助力などがなくても、情報や考え・気持ちなどを整理して話したり、まとまりのある文章を書いたりしている。(1文程度)			○ある場所への行き方とそこでできることについて、相手の意見を知り、自分の意見をまとめるにあたり、自発的に情報を収集し、教師の助言・助力などがなくても、情報や考え・気持ちなどを整理して話したり、まとまりのある文章を書いたりしようとしている。(1文程度)		
単元名	Lesson4 A Miracle Mirror							
単元の目標	○海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する。 ○to 不定詞<to＋動詞の原形>を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ○行ってみたい場所について、英語を述べることができる。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	○ to 不定詞 <to＋動詞の原形>を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ○ウユニ塩湖でやりたいこと、行ってみたい場所ややりたいことについて、to不定詞を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝え合う技能を身に付けている。		○ある場所に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、行ってみたい場所ややりたいことについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合っている。			○ある場所に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、行ってみたい場所ややりたいことについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合おうとしている。		

単元名		Lesson5 Learning from the Sea 長浜高校水族館部						
単元の目標		○高校のユニークな部活動を通して、今好きなことと将来の夢について考えたり表現したりする。 ○動名詞・動詞の ing 形を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ○将来の夢について、英語で述べることができる。						
観点		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)		○動名詞(動詞の ing 形)を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ○将来の夢や先週末に楽しんだことについて、動名詞(動詞の ing 形)を用いて、考えや気持ち、情報などを話して伝え合う技能を身につけている。		○高校のユニークな部活動に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、将来の夢や先週末に楽しんだこと について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、考えや気持ち、情報などを話したり書いたりして伝え合っている。		○高校のユニークな部活動に 関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、将来の夢や先週末に楽しんだこと について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、考えや気持ち、情報などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。		
授業計画								
学期 月		学習項目		学習内容		予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4	Pre-Lesson1	アルファベット・数字・曜日・月、自己紹介(P)		10		定期考査 パフォーマンステスト 発表 話し合い活動 授業への取組状況 等	
	5		人称代名詞、英語の語順、品詞		10			
	6		be動詞、三単現のs		10			
	7		一般動詞		10			
	8		デートに誘う(P)		6			
後期	9	Lesson1	過去形		12			
	10	Lesson2	進行形		7			
	11	Lesson3	地域防災について(W)		7			
	12	Lesson4	助動詞		10			
	1	Lesson5	道案内(P)		7			
	2		不定詞、英作文(w)、		8			
	3		過去分詞		8			
	合 計							105
学習サポート								

学年・コース	教科	科目		単位数	担当者			
1 学年	家庭科	家庭総合		2	石野 彩花			
使用教科書	家庭総合（東京書籍）			使用副教材				
科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
				○			○	
育成のための 具体的方策	・ワークシートの活用と、単元テスト・定期考査による基礎学力の確認 ・実習、グループワーク、課題作成の実施							
評価規準 （到達目標）	観点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて科学的な理解をしているとともに、それらに係る技能を身につけている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現し、生涯を見通して課題を解決する力を身につけている。			様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図ろうとするために実践しようとしている。		
評価の方法	定期考査・単元テスト 実技課題		定期考査・単元テスト グループワーク・発表ワークシート			ワークシート グループワーク・発表		
単元の目標・評価規準								
単元名	第1章 生涯を見通す							
単元の目標	人の一生を生涯発達の視点で捉え、様々な生き方を理解するとともに、自らの生き方を見つめ、将来の生活に向かって目標をたて、展望を持って生活することの重要性を理解し、自己実現のために、生涯を見通した生活を設計することができるようにする。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	ライフライフステージの特徴と課題を理解し、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。		生涯を見通した自己の生活について考え、将来の家庭生活及び職業生活について生活資源を活用して考察し課題を解決する力を身につけている。			自らの生き方を見つめ、将来の家庭生活及び職業生活について主体的に考え、実践しようとしている。		
単元名	第2章 人生をつくる							
単元の目標	青年期の生き方を考え、家族・家庭の意義と社会との関わりについて理解を深め、男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を気づくことの重要性について考察することができるようにする。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	家族・家庭の機能と家族関係、法律、福祉などについて理解し、家族・家庭の意義や社会との関わり、家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。		より良い生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任を持って行動することや、男が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を気づくことの重要性について考察し課題を解決する力を身につけている。			青年期の生き方や家族の一員としての役割について主体的に考え、他者と協働し、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図ろうとするために実践しようとしている。		
単元名	第3章 子どもと共に育つ							
単元の目標	乳幼児期の心身の発達とそれを支える生活、子供の遊びと文化、子供が育つ環境と福祉、子育て支援、子供との関わり方についての知識や技術を身につけ、子供を生み育てることの意義、親や家族及び地域や社会の役割の重要性について考察し、子供との適切な関わり方を工夫することができる。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	乳幼児の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身につけている。		子供を生み育てることの意義や、保育の重要性について考え、子供の健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察し、子供との適切な関わり方を工夫することができる。			保育・福祉の重要性について主体的に考え、よりよい環境・社会の充実に向上を図ろうとするために実践している。		
単元名	第7章 衣生活をつくる							
単元の目標	衣生活の科学と文化について理解し、生涯を見通した衣生活の管理ができるようにする。また実習を通して被服製作や被服管理について理解し、健康で快適な衣生活を主体的に営むことができるようにする。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	被服材料や製作、衛生、管理及び衣文化について理解を深め、衣生活の自立に必要な技能を身につけている。		目的や個性に応じた健康で快適な着装について考え、計画することができる。また日本の衣文化の継承・創造について考察し課題を解決する力を身につけている。			健康で快適な衣生活について主体的に考え、衣文化を継承し、自分や家庭の生活の充実に向上を図ろうとするために実践しようとしている。		
単元名	第8章 住生活をつくる							
単元の目標	住生活の科学と文化について理解し、生涯を見通した住生活の計画・管理ができるようにする。また住生活に関わる情報を適切に判断し、生涯を通して安全や環境に配慮した住生活を主体的に営むことができるようにする。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	住生活の特徴、安全や環境に配慮した重機能、住文化について理解を深め、住生活の計画・管理に必要な技術を身につけている。		ライフステージや住環境に応じた住居の計画、安全や環境に配慮した住生活について考え、計画することができる。また日本の住文化の継承・創造について考察し課題を解決する力を身につけている			安全で快適な住生活について主体的に考え、住文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図ろうとするために実践しようとしている。		
単元名	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ							
単元の目標	高等学校家庭科の特色であるホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解し、実際に自己の家庭生活や地域の生活の中で実践できるようにする							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		

評価規準 (A 評価のレベル)		ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。	自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し , 解決方法を考え , 計画を立てて実践する力が身についている。	自身や家庭、学校の課題を解決しようとし、実践しようとしている。		
授業計画						
学期 月	学習項目		学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4	第 1 章 生涯を見通す 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	○ライフステージごとの特徴と課題を理解する。 ○青年期の課題を理解し、自身の生活を振り返る。 ○意思決定を行うことの重要性を理解し、生活設計を行う。 ○「人生100年時代」のさまざまなライフコースについて理解する。	3		ワークシート 単元テスト
		第 2 章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会 【単元テスト】	○家族・家庭の構成や、関連する法律について理解し、それらの必要性について考える。 ○家庭生活や生活時間について学び、男女が相互に協力し合う社会形成ための課題と解決方法を考える。	8		単元テスト ワークシート
	5					
	6	第 3 章 子どもと共に生きる 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境 【単元テスト】	○子どもの誕生、発達、保育環境について理解し、生み育てることの意義や、保育の重要性について考える。 ○子どもと、工夫して関わる。	21		単元テスト ワークシート
	7					
	8					
	9	第 7 章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 被服をつくる 5 衣生活の文化と知恵 6 これからの衣生活 【単元テスト】	○被服の役割や性能を理解し、状況に応じた被服の選択や管理する力を身につける。 ○被服の構成を理解し、目的に合った被服を作成する力を身につける。 ○日本の衣生活の変遷や衣文化、世界の衣文化について理解し、伝統を継承するための課題と方策について考える。	25		単元テスト 提出課題 ワークシート
	10					
	11					
	12					
後期	1	第 8 章 住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活 【単元テスト】	○住居の機能や平面図について理解し、ライフステージに合った住居の計画を立てる。 ○安全で快適な住居について理解し、住居を管理・選択できる力を身につける。 ○日本の住生活の変遷や住文化、世界の住文化について理解し、文化の伝承と環境を配慮した住生活について考える。	11		単元テスト 提出課題 ワークシート
	2					
	3	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	○実施の意義と目的を理解し、課題を見いだし、解決方法を考える。	2		ワークシート
			合 計	70		
学習サポート		・裁縫セットを使用しますので、準備しておいてください。 ・実習やグループワーク等も授業で行いますので、欠席には注意し、積極的に参加しましょう。				

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
1 学年	情報		情報		2	戸草内 桃華		
使用教科書	情報 （日本文教出版）			使用副教材		情報 サブノート（日本文教出版）		
科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケ ーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
							○	
育成のための 具体的方策	基礎学力：ワークシートを使用。確認プリントと定期考査で基礎学力が身に付いたかを確認。 情報活用力：プレゼンテーションソフト・文書作成ソフト・表計算ソフトの基本的操作方法の習得。コンピュータのしくみや、情報の検索方法の工夫、プログラミングなど、PCの利用を実践的に行う。 協働力・課題解決力：グループ討議を通して、情報社会の問題解決に取り組む。							
評価規準 （到達目標）	観 点							
	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。			様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う		情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う		
評価の方法	確認プリント・定期考査 問題集・実技課題			確認プリント・定期考査 グループ討議・実技課題 発表		問題集・ワークシート グループ討議・発表 振り返り・行動観察		
単元の目標・評価規準								
単元名	序章 情報社会に生きるわたしたち 第1章 情報社会の問題解決							
単元の目標	情報と情報技術を活用した問題の発見・解決の方法に着目し、情報社会の問題を発見・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。							
観 点	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	○ 情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題の発見・解決することができる。 ○ 情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解し、遵守することできる。 ○ 情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について十分に理解している。			○ 目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題の発見・解決する方法について考えることができる。 ○ 情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考察することできる。 ○ 情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察することができる。		○ 情報社会における問題の発見・解決に情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報モラルなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。		
単元名	第2章 コミュニケーションと情報デザイン							
単元の目標	メディアとコミュニケーション手段及び情報デザインに着目し、目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。							
観 点	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	○ メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解している。 ○ 情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解している。 ○ 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付けている。			○ メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択することができる。 ○ コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考えることできる。 ○ 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善することができる。		○ 情報と情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを積極的に行い、情報社会に主体的に参画しようとしている。		
単元名	第3章 コンピュータとプログラミング							
単元の目標	コンピュータで情報が処理される仕組みに着目し、プログラミングやシミュレーションによって問題の発見・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。							
観 点	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	○ コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の内部表現と計算に関する限界について理解している。 ○ アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し技能を身に付けている。 ○ 社会や自然などにおける事象をモデル化する方法、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解している。			○ コンピュータで扱われる情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考察することできる。 ○ 目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用するとともに、その過程を評価し改善することできる。 ○ 目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行うとともに、その結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考えることできる。		○ 問題解決にコンピュータを積極的に活用し、結果を振り返って改善しようとし、生活の中で使われているプログラムを見だして改善しようとするなどを通じて情報社会に主体的に参画しようとしている。		

単元名	第4章 情報通信ネットワークとデータ活用		
単元の目標	情報通信ネットワークを介して流通するデータに着目し、情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを活用し、問題を発見・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。		
観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	- 情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解している。 - データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解している。 - データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し技能を身に付けている。	- 目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保する方法について考えることができる。 - 情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考えることができる。 - データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善できる。	情報技術を適切かつ効果的に活用し、データを多面的に精査し、情報セキュリティなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。

授業計画					
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4 序章 情報社会に生きるわたしたち 1 なぜ情報について学ぶのか 2 「情報」で学ぶこと 3 学習の前に確認しよう 適切なパスワードを設定しよう。 PC室実習	- 情報について学ぶ意義を理解する 「情報」で学ぶ内容を理解する 「情報」の学習をはじめる前に、中学校までの学習内容を確認する - 適切なパスワードを考えて設定する。 - キーボード入力（ローマ字）の確認。	1		ワークシート 行動観察 実習課題
	第1章 情報社会の問題解決 1 情報の特性 2 メディアの特性	- 情報の特性を考える - メディアの特性を考える	1 1		単元テスト・問題集 ワークシート
	第2章 コミュニケーションと情報デザイン 1 メディアとコミュニケーション	- メディアの発達、コミュニケーションの形態や特性を理解する - 情報機器のパーソナル化とソーシャルメディアの関係性を理解する	2		単元テスト・問題集 ワークシート 確認プリント
	5 第1章 情報社会の問題解決 3 問題解決の考え方 6 情報社会と情報セキュリティ 8 情報技術の発展による社会の変化	- 問題解決の考え方を身につける - サイバー犯罪について考える - 情報技術の発展と社会の変化を考える	1 1 1		単元テスト・問題集 ワークシート 確認プリント
	6 [実習] プレゼンテーションソフトの基本 【単元テスト】	プレゼンテーションソフトの基本操作を身につける。	3		行動観察
	[実習] プレゼンテーションソフトを用いた発表実践	聞き手に対して、分かりやすいプレゼン作成の技能と、聞き取りやすく要点がきちんと伝わる表現を身につける。	6		作品評価・相互評価
	7 第1章 情報社会の問題解決 7 情報技術の発展による生活の変化	ソーシャルメディアの適切な活用方法を身につける	5		グループワーク・発表
	8 4 法的重要性と意義 - 著作権 5 法的重要性と意義 - 個人情報	- 著作権侵害について考える - 個人情報について考える	2 2		単元テスト・問題集 ワークシート 確認プリント
	9 【単元テスト（前期期末考査）】		1		
	第2章 コミュニケーションと情報デザイン 2 情報のデジタル化	- アナログとデジタルの違い、2進法と情報量の単位との関係を理解する - コンピュータによる情報の表現のしくみを理解する	6		単元テスト・問題集 ワークシート 確認プリント 実践課題
後期	10 3 情報デザイン	- 情報デザインの考え方を知る - 情報デザインによる問題解決のプロセスを理解する	4		
	第3章 コンピュータとプログラミング 1 コンピュータのしくみ	- コンピュータの基本的な構成を理解する - CPUによる演算のしくみを理解する	7		単元テスト・問題集 ワークシート 確認プリント
	11 2 アルゴリズムとプログラム 【単元テスト】	- アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る - 変数、データ型、演算子、関数などプログラムを構成する要素を確認する - 配列など、プログラミングでデータを効率よく利用する方法を理解する - グループ分けプログラムの作成手順を見ながらプログラミングの方法を理解する	9		実技課題・行動観察 定期考査・問題集

	12	第3章 コンピュータとプログラミング 3 モデル化とシミュレーション	○モデル化とシミュレーションの考え方を理解する ○プログラミングによりコンピュータを用いてシミュレーションをする	3		実技課題・行動観察
	1	第4章 情報通信ネットワークとデータの活用 1 情報通信ネットワークのしくみ	○コンピュータネットワークの構成を理解する ○データ伝送のしくみとプロトコルの役割を理解する ○暗号化などの情報セキュリティを高める方法について理解する	5		単元テスト・問題集 ワークシート 実技課題・行動観察
	2	2 情報システムとデータベース	○情報システムが社会をどのように支えているか理解する ○データベースの役割について理解する	2		単元テスト・問題集 ワークシート
		【単元テスト（学年末考査）】		1		
	3	第4章 情報通信ネットワークとデータの活用 3 データの活用	○データの活用が問題解決に役立つことを踏まえ、データ収集の方法を理解する ○数値データ、テキストデータの分析方法を理解する	3		実技課題・行動観察
合 計				70		
学習サポート		・授業では用意したワークシートと教科書・問題集・Chrome bookを使用します。忘れ物をしないようにしてください。 ・Classroomを用いて、ワークシートや課題の配布を行ったり、授業や試験範囲などの連絡を行ったりします。通知を切らないようにしてください。 ・実習はコンピュータ教室を使用します。				

学年・コース	教科	科目		単位数	担当者			
1 学年	商業	ビジネス基礎		2	戸草内 桃華			
使用教科書	ビジネス基礎（実教出版）			使用副教材	ビジネス基礎準拠問題集（実教出版）			
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人としての必要な基本的な資質・能力を育成することを目指す。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	◎	○					○	
育成のための 具体的方策	基礎学力：ワークシートを使用した授業。単元テストで基礎学力が身に付いたかを確認。 コミュニケーション能力・協働力、課題解決力：グループワークやロールプレイングを通して、さまざまな課題を発見し、多様な意見を受け入れながら、自分の考えを表現し、解決策を見いだす。							
評価規準 (到達目標)	観点							
	知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。		ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。			ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。		
評価の方法	定期考査・単元テスト ロールプレイング 実技課題		定期考査・単元テスト グループワーク・発表			問題集・ワークシート グループワーク・発表 ロールプレイング		
単元の目標・評価規準								
単元名	1 章 商業の学習とビジネス							
単元の目標	商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの役割など知識などを基盤として、商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について自らの考えを持つとともに、ビジネスの展開についての意義や意欲を高め、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。							
観点	知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	商業の学習及びビジネスの概要について理解し、活用することができる。		商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展と関連付けて見いだすことができ、自分の考えで行動できる。			ビジネスの基礎的な事項について学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組むことができ、他人と関わるることができる。		
単元名	2 章 ビジネスとコミュニケーション							
単元の目標	信頼関係の構築、コミュニケーションなどビジネスに対する心構えに関する知識・技術などを基盤として、信頼関係の構築がビジネスに及ぼす影響など科学的な根拠に基づいて、ビジネスの展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。							
観点	知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	ビジネスに対する心構えについて実務に即して理解することができる。また関連する技術を身に付け、実践することができる。		ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスにおいて他者に対応するとともに情報を入手して活用し、評価・改善することができる。			ビジネスに対する心構えについて自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組むことができる。		
単元名	3 章 経済と流通の基礎 4 章 さまざまなビジネス							
単元の目標	経済の基本概念、流通の役割など経済と流通に関する知識などを基盤として、経済と流通の動向など科学的な根拠に基づいて、流通を支える活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。							
観点	知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	経済の基本概念、流通の役割など経済と流通に関する知識を具体的な事例と関連付けて理解している。		経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠にも基づいて課題への対応策を考案することができる。			経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に主体的かつ協働的に取り組んでいる。		
単元名	5 章 企業活動の基礎							
単元の目標	企業の形態と組織、マーケティングの重要性と流れなど企業活動に関する知識などを基盤として、企業活動の動向など科学的な根拠に基づいて、企業活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。							
観点	知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	企業活動に関する知識・技術を身に付け、企業活動の展開について、組織の一員としての役割を理解し、経済社会における事例と関連付けて理解している。		企業活動に関する課題を発見し、実務に即した場面を想定し、自ら知識を活用しながら科学的な根拠に基づいて状況に応じて最善の対応策を提案することができる。			企業活動について自ら学び、組織の一員として適切な企業活動の展開に主体的かつ協働的に取り組むことができ、さらに、企業活動に関する事例などを踏まえ、責任を持って取り組むことができる。		
単元名	6 章 ビジネスと売買取引 7 章 ビジネス計算							
単元の目標	売買取引、代金決済など取引とビジネス計算に関する知識、技術などを基盤として、実務における取引とビジネス計算の方法など科学的な根拠に基づいて、契約の締結と履行について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。							
観点	知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	取引とビジネス計算に関する知識・技術を身に付け、科学的な根拠に基づいて契約の締結と履行について組織の一員としての役割を理解し、応用的問題を解くことができる。		取引とビジネス計算に関する課題を発見し、実務に即した場面を想定し、自ら知識を活用しながら科学的な根拠に基づいて状況に応じて最善の対応策を提案することができる。			取引とビジネス計算についてメディアの情報を活用するなどして自ら学び、組織の一員としての適切な契約の締結と履行に主体的かつ協働的に取り組むことができる。		

単元名	8章 身近な地域のビジネス		
単元の目標	身近な地域のビジネスに関する知識などを基盤として、地域のビジネスを取り巻く環境など科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興による地域の発展について、組織の一員としての役割を果たすことができる。		
観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	身近なビジネスについて理解を深めることができる。	身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を考案して実施し、評価・改善することができる。	身近な地域のビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる。

授業計画							
学期 月		学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法	
前期	4	1章 商業の学習とビジネス 1 いざビジネスの世界へ 2 私たちの社会とビジネス	○商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの概要について理解する。 ○ビジネスの役割について、企業の社会的責任や、環境、エネルギー、食料などの社会的な課題及びビジネスの動向・課題について具体的な事例と関連付けて学ぶ。 ○実践する力、職業人として必要な豊かな人間性、他者と協働する力を身に付ける。	6		定期考査 単元テスト ワークシート 問題集	
	5	2章 ビジネスとコミュニケーション 1 コミュニケーション 2 ビジスマナー 3 情報の入手と活用	○ビジネスにおける信頼関係構築の意義と重要性を学ぶ。 ○ビジスマナーの意義を理解し、場面に応じて考え、活動できる力を身に付ける。 ○企業活動における情報の重要性について理解し、情報の活用及び評価・改善を行う。	8		定期考査 単元テスト ワークシート 問題集 ロールプレイング	
	6	【前期中間考査】		1			
		3章 経済と流通の基礎 1 経済の仕組みとビジネス 2 経済活動と流通	○経済の仕組みと流通の必要性について理解する。 ○経済の基本概念、流通の役割など経済と流通に関する知識を基盤として、流通に関する課題を発見し、その解決方法を考える。 ○流通を支える組織の一員としての役割を果たすことができる力を身に付ける。	8		定期考査 単元テスト ワークシート 問題集	
	7	4章 さまざまなビジネス 1 ビジネスの種類 2 小売業 3 卸売業 4 物流業	○ビジネスの種類について理解し、流通や流通に関わる様々なビジネスについて学ぶ。 ○流通や流通に関わるビジネスに関する知識を基盤として、流通や流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、その対応策を考える。	11		定期考査 単元テスト ワークシート 問題集	
	8	5 金融業	○流通や流通に関わる組織の一員としての役割を果たすための力を身に付ける。				
	9	6 情報通信業					
		【前期期末考査】		1			
	後期	10	5章 企業活動の基礎 1 ビジネスと企業 2 マーケティングの重要性 3 資金調達 4 財務諸表の役割 5 企業活動と税 6 雇用	○企業活動の形態と組織、マーケティングの重要性と流れなど企業活動に必要な知識を学ぶ。 ○企業活動に関する知識を基に、企業活動の動向など、企業活動に関する課題を発見し、その対応策を考える。 ○企業活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身に付ける。	9		定期考査 単元テスト ワークシート 問題集 グループワーク 発表
		11	6章 ビジネスと売買取引 1 売買取引の手順 2 代金決済	○売買取引、代金決済など取引に関する知識や技術を学ぶ。 ○取引に関する知識や技術を基に、実務における取引に関する課題を発見し、その対応策を考える。 ○契約の履行と締結について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身に付ける。	9		定期考査 単元テスト ワークシート 問題集
12		【後期中間考査】		1			
1		7章 ビジネス計算 1 ビジネス計算の基礎	○ビジネス計算に関する知識や技術を学ぶ。 ○ビジネス計算について学び、その知識と技術で組織の一員としての役割を果たすことができる力を身に付ける。	10		定期考査 単元テスト ワークシート 問題集	
2		2 ビジネス計算の応用				実技課題	
		【学年末考査】		1			
3		8章 身近な地域のビジネス 1 さまざまな地域の魅力と課題 2 地位ビジネスの動向	○さまざまな地域の魅力と課題、地域ビジネスの動向について学ぶ。 ○さまざまな地域のビジネスに関する知識などを基に、身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、その対応策を考える。 ○ビジネスの振興による地域の発展について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身に付ける。	5		ワークシート グループワーク 発表	
			合 計	70			
学習サポート		11月ビジネス計算実務検定、2月全商商業経済検定3級「ビジネス基礎」を受験します。 教科書を使用した学習だけではなく、さまざまな実習や電卓の使用の仕方、グループワークなど、単元によって学習の仕方が変わります。積極的に参加をしてください。					

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
1 学年			産業社会と人間		1	矢野 晋太郎		
使用教科書				使用副教材	実践 産業社会と人間（実教出版）			
科目の目標	自己の在り方や生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、様々な体験的な学習や調査、研究などを通して、将来の目標や課題を見つけ、それを主体的に解決するための能力を育てる。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
		○		○	○		○	○
育成のための 具体的方策	コミュカ：ワークショップ。 自己管理：進路適性検査、ライフプラン作成。 情報活用：職業・学校調べ、ライフプラン作成。 未来設計：インターンシップ報告会、おしごと体験。 協働・課題：ピアサポート、ワークショップ。 社会形成：インターンシップ報告会、企業見学、おしごと体験、職業・上級学校調べ。							
評価規準 （到達目標）	観 点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	上級学校や職業についての知識、理解を深め、将来の目標達成や課題解決のために必要な知識や技能を身に付ける。		自己分析などをもとに自己の在り方や生き方を考察している。 将来の課題を主体的に解決する方法を考察できる。			生涯にわたって学習に取り組む意欲や社会に積極的にかかわり、社会を形成する態度を養う。		
評価の方法	ワークシート、レポートの内容等		ワークシート、レポート内容等			授業への取り組み状況、出席状況、ワークシート等の提出状況など		
単元の目標・評価規準								
単元名	コミュニケーションの基本を学ぶ							
単元の目標	適切なあいさつと話し方や聞き方を身につける、実生活に役立てることができるようにする。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A 評価のレベル）	基本的な作法を理解している。			相手の気持ちや立場を尊重してコミュニケーションを取ることができている。			グループのメンバーと適切にコミュニケーションをとり、意欲的に取り組むことができる。	
単元名	中学時代の振り返りと自分トリセツ							
単元の目標	主観的な視点だけでなく、客観的な視点で自分を見つめ直せることができるようにする。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A 評価のレベル）	自分のことについて的確に理解している。			理解していることを言葉や数値で表現することができている。			主体的に調べ学習に取り組み、積極的に活動に参加している。	
単元名	上級学校について知る・上級学校見学							
単元の目標	地域の上級学校を見学し進路選択の幅を広げ進路の意識を高める。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A 評価のレベル）	適切な情報収集ができています。			上級学校に対する疑問を発見し、進路に対する意欲が強くなっている。			主体的に調べ学習に取り組み、積極的に活動に参加している。	
単元名	進路適性検査（自分を知る）							
単元の目標	進路適性検査を通して、自分の性格の特徴や興味のある分野を理解し、進路の目標を定め、主体的に学習する意欲を高める。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A 評価のレベル）	進路実現のために高校生活で身に付けるべき力、やるべきことを明確にしている。			検査をもとに卒業後の進路に対するビジョンが明確になっている。			自分の在り方や生き方を知り、進路選択に向けて主体的に活動ができています。	
単元名	仕事を知る（未来辞典）							
単元の目標	地元の企業を見学し、幅広い勤労観を養い、進路意識を高める。 地元の上級学校を見学し、進学のイメージを具体化させることで進路選択の幅を広げるとともに進路について考える意識を高める。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A 評価のレベル）	適切な情報収集が行えている。			調べたことを元にブランディングができています。			主体的に調べ学習に取り組み、その結果をもとに進路について真剣に考えることができます。	
単元名	進路を考えるグループワーク 仕事パズルワーク							
単元の目標	自分の意見を発信することができるようになる。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A 評価のレベル）	適切な情報収集が行えている。			卒業後の進路に対するビジョンが明確になっている。			グループのメンバーと適切にコミュニケーションをとり、意欲的に取り組むことができる。	
単元名	おしごとまるわかり体験							
単元の目標	興味のある職業を調べ、仕事の特徴を理解し、自分の適性をふまえて今後の自らの学びを考察することができるようになる。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A 評価のレベル）	業務をきちんと遂行することができている。 適切な情報収集が行えている。			仕事の特徴を理解し、的確な判断をすることができる。			主体的に調べ学習に取り組み、その結果をもとに進路について真剣に考えることができる。	

			きている。			
単元名	職業分科会					
単元の目標	人生の節目にあるライフイベントを意識し、自己の在り方、生き方を考察する。また、計画に変更があればその都度計画を見直し、生活設計をしながら毎日過ごすことができるようになる。					
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
評価規準 （A評価のレベル）	どのようなライフイベントが予想され、身に付ける力や必要な資金などを理解する。	人生の計画を立て、目標に向かって努力し、状況に応じて修正、反省を繰り返しながらよりよい生き方を考察する。	自分の在り方や生き方を知り、進路選択に向けて主体的に活動ができています。			
単元名	進路座談会					
単元の目標	卒業生や社会人、専門家の方から進路についてどのように取り組んだか、高校生活で大切にしたこと、仕事の内容や魅力を聞き進路活動に向けての意欲を高める。					
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
評価規準 （A評価のレベル）	進路についての魅力を発見できている。	講師との対話を通して自らの在り方、生き方を考察することができている。	講師との対話を通して、真剣に進路について考えることができています。			
授業計画						
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法	
4 5 6 7 9 10 11 12 3	オリエンテーション	目的、目標、評価、進路希望調査	1		取り組み状況	
	コミュニケーションの基本を学ぶ 中学校時代の振り返り	自己分析を行い、進路選択に活かす	2 1		評価シート	
	上級学校について知る 上級学校見学 進路適性検査	貸切バスで見学する	2 4 1		ワークシート・作文	
	仕事を知る	社会課題を意識し、課題の快活を仕事という側面から考える	3		ワークシート	
	進路を考えるグループワーク 仕事パズルワーク 上級学校見学	自己分析を行い、進路選択に活かす 興味のある職業を調べ、自分の適性をふまえて今後の自らの学びを考察する 貸切バスで見学する	1 1 3 6		ワークシート ワークシート ワークシート・作文	
	インターンシップ報告会聴講		1		ワークシート	
	おしごとまるわかり体験 職業分科会	2年生のインターンシップ報告会を聴講し、評価する	3 3		ワークシート	
	進路座談会 産業社会と人間振り返り	仕事を体験し進路意識を高める 地域の事業所を見学し、働くことの意義を理解し将来を設計する	2 1		ワークシート	
		自分の興味・適性に合った職業を知る 高校からのライフプランを作成する				
	合 計		3 5			
	学習サポート		スタディサポートのアプリや活動メモを活用します。			

学年・コース		教科		科目		単位数	担当者		
1 学年		環境鮮麗学（学校設定科目）				1	矢野 晋太郎		
使用教科書		-			使用副教材		-		
科目の目標		環境を学ぶことを通じて、学ぶことが即社会に生きた知識として役立つことを学び、アウトプットする能力を養う。							
育成を目指す 資質・能力		基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
		○		○	○				
育成のための 具体的方策		「コミュニケーション・スキル」グループの中で、自分が担うべき役割を見極める力。 「情報の理解・選択・処理」身近な環境の現状把握と問題解決に対する発想力と情報発信力。 「将来設計・郷土愛」地域に限らず、地球規模で自身のできることを発見する能力。							
評価規準 （到達目標）		観点							
		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
		演習における取組状況、レポートの内容		ワークシート・作文・レポートの内容			授業への参加状況、出席状況、ワークシート等の提出状況		
評価の方法		身近な環境の現状把握と自分達にできることの提案。		教科横断型の発想。 実地、レポート。その取組具合と発表。			出席、提出物、グループ内の自身の役割・担当分野の理解。グループに対する貢献度。		
単元の目標・評価規準									
単元名		SDGsって何だろう～環境鮮麗学「漂着ゴミ調査」～							
単元の目標		「リアルSDGs」を目指すSDGsの概念の一人歩きが却ってSDGs嫌いを作っている。ここでは学ばべき順序が違うことを問いかけ、学習のためのスキルの獲得を目指す。環境学はその先にあり、これさえ整えば後は芋蔓式に内容が入ってくることを実感させる。							
		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）		漂着ゴミの実態と問題の分析（ゴミが何処からやってくるのか、どの海流が関係しているのか、輸送経路はどうか等）		他教科との横断的な思考や発想力が十分に発揮できている。			グループ内で積極的に自身の役割を果たしている。		
単元名		一次産業に関する研究（訪問見学学習）及びそれに付帯する課題研究							
単元の目標		海洋ゴミの調査や、環境保全型の産業施設を訪問することで、実際に行われている産業活動が環境へどのような影響を与えているのかを実体験する。夏休みを挟むことにより家庭での考察期間を設け、保護者や兄弟とも協働を図る。							
		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）		環境保全型農業や環境に配慮した施設ではどのような工夫がなされているかを考え、理解する。		他教科との横断的な思考や発想力が十分に発揮できている。			グループ内で積極的に自身の役割を果たしている。		
単元名		身近な自然をよく見よう・エネルギーを見直そう							
単元の目標		前単元までの探究を活かし、大目標である「WHAT」を極め、次学年の「WHY」につなげる活動をする。							
		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）		2年次に行う「エネルギー」関連の序章。国によっては地下資源を第一次産業と位置づける場合もある。無関係でないことを学ぶ。		他教科との横断的な思考や発想力が十分に発揮できている。			グループ内で積極的に自身の役割を果たしている。		
単元名		極めた人にきいてみよう・自分の想いを伝えよう							
単元の目標		前単元までに知り得た情報・知識を活用し、アウトプットしまとめる。							
		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）		総探・環鮮で行う「第一次産業」見学の担当の方々とのパイプを生かし、環境へどのような配慮が可能なのかを知る。		他教科との横断的な思考や発想力が十分に発揮できており、クラスの仲間にも伝わっている。			グループ内で積極的に自身の役割を果たし、発表内に活かしている。		
授業計画									
学期 月	学習項目			学習内容			予定 時間	実施 時間	評価方法
前 前 後 後	4 6 10 11	SDGsって何だろう 一次産業に関する研究 身近な自然・エネルギー キワメビト・想いを伝える		漂着ゴミ調査・パシクル沼巡検 環境に配慮した産業について考える 再生可能エネルギーに関する事前知識の習得 人とのつながり			6 9 6 14		レポート・発表 レポート・発表 レポート・発表 作品・取組など
合 計							35		
学習サポート		(1) 調査の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、環境を学ぶ意義や価値を理解するようにする。 (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 環境学に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。							

学年・コース		教 科		科 目		単位数		担当者		
1 学年		総合的な探究の時間				1		矢野 晋太郎		
使用教科書		-			使用副教材		高校生のための「探究学習」ワーク（学事出版）			
科目の目標		探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。								
育成を目指す 資質・能力		基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力	
			○	○					○	
育成のための 具体的方策		「コミュニケーション・スキル」グループ学習を通して自分と他者の違いを認識。 「情報の理解・選択・処理」白糠町の現状把握と問題解決に対する発想力。 「将来設計・郷土愛」地域に対し、自身のできることを発見する能力。								
評価規準 （到達目標）		観点								
		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
		演習における取組状況、レポートの内容 内容			ワークシート・作文・レポートの内容			授業への参加状況、出席状況、ワークシート等の提出状況		
評価の方法		身近な環境の現状把握と自分達にできることの提案。			レポート、取り組み			出席、提出物、グループ内の自身の役割・担当分野の理解。グループに対する貢献度。		
単元の目標・評価規準										
単元名		探究の進め方・ツールの使い方・情報収集の方法								
単元の目標		探究活動に興味、関心をもち、今後の活動に必要なスキルを身につける。								
観点		知識・技能			知識・技能			知識・技能		
評価規準 （A評価のレベル）		適切な操作方法を習得できている。			適切な操作方法を習得できている。			適切な操作方法を習得できている。		
単元名		インタビューを行う・アンケートを作る・情報を整理する・統計データを作る・情報を分析する								
単元の目標		物事に対して疑問を持つことができるようになる。								
観点		知識・技能			知識・技能			知識・技能		
評価規準 （A評価のレベル）		適切にツールを使用し、的確な情報収集が行えている。			適切にツールを使用し、的確な情報収集が行えている。			適切にツールを使用し、的確な情報収集が行えている。		
単元名		グループディスカッション・発表資料を作成する・発表会								
単元の目標		グループで意見を交換し、これまでに集めてきた情報の成果や課題を発表する。 発表する力を身につける。								
観点		知識・技能			知識・技能			知識・技能		
評価規準 （A評価のレベル）		発表するための資料を作成することができている。			発表するための資料を作成することができている。			発表するための資料を作成することができている。		
単元名		2 年生 0 学期（課題を見つける・課題の具体化・仮説を立てる・課題を再考する）								
単元の目標		白糠町を盛り上げるために疑問を発見する。 実現に向けた準備を行う。								
観点		知識・技能			知識・技能			知識・技能		
評価規準 （A評価のレベル）		的確な情報収集を行うことができている。			的確な情報収集を行うことができている。			的確な情報収集を行うことができている。		
授業計画										
学期 月		学習項目			学習内容			予定 時間	実施 時間	評価方法
前 前 後 後	4	探究の進め方・ツールの使い方・情報収集の方法			アプリケーションの操作方法 作成したアンケートを実践			10		ワークシート 提出物 発表
	5	インタビューを行う・アンケートを作る・情報を整理する・統計データを作る・情報を分析する						7		
	9	グループディスカッション・発表資料を作成する・発表会			発表に向けた準備			10		
	1	2年生 0 学期(課題を見つける・課題の具体化・仮説を立てる・課題を再考する)			課題の発見			8		
合 計								35		
学習サポート		(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。 (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。								

